福岡大学
学園通信

人と夢を紡ぐ
コミュニケーションマガジン

48
January, 2015

「共に」

一人一人の力は小さくても、その力を合わせれば
大きな成果を生む。共に挑めば、夢はかなう。

FUKUOKA UNIVERSITY

「共に」

文部科学省が主催する「サイエンス・インカレ」。
次代の科学技術を担う研究者のタマゴ達が
自主研究の発表を行う年1回の祭典である。
福岡大学工学部の学生3人が、
その第3回「サイエンス・インカレ」に挑んだ。

何から進めていいか分からず、戸惑う日々。
時には3人の意見が食い違い、
衝突しそうになることも。
しかし、研究室の先生や先輩、
さらに理学部の先生からも助言を受けた。
分かりやすく役立つ研究内容を心掛け、
その結果、厳しい事前審査を通過。
それからも来る日も来る日も実験を重ねた。
研究室で朝を迎えることもあった。

２０１４年３月、
第３回「サイエンス・インカレ」研究発表。
全国の精鋭たちの発表に圧倒され、
緊張のあまり声が震えた。
失敗したかもしれない。
いや、自分たちの力は出し切った。

届いた連絡は、栄えあるダブル受賞という快挙。
しかもこの受賞がきっかけとなり、
外務省の「ＫＡＫＥＨＡＳＨＩプロジェクト」
にも選ばれ、２０１４年９月には、
米国の地で研究内容を英語で披露した。

一人一人は小さな力でも、
多くの人々の支えを得ながら、
力を合わせれば大きな成果を生む。
夢はかなう。
２０１５年３月、３人は卒業を迎え、
それぞれの道へと旅立っていく。

学校法人福岡大学理事長に田中浩二氏を選任

鎌田迪貞理事長の退任に伴い、平成26年12月25日の理事会において、田中浩二氏（九州旅客鉄道株式会社特別顧問）を新理事長に選任しました。任期は、平成26年12月26日から平成29年12月19日まで。

田中新理事長の略歴は次のとおりです。

昭和35年　東京大学卒業
平成９年　九州旅客鉄道株式会社 代表取締役社長
平成14年　九州旅客鉄道株式会社 代表取締役会長
平成20年　九州旅客鉄道株式会社 相談役
平成26年　九州旅客鉄道株式会社 特別顧問　現在に至る

その他
平成14年　社団法人九州・山口経済連合会 副会長
平成22年　社団法人九州経済連合会 顧問　現在に至る
（現 一般社団法人九州経済連合会）

なお、前理事長である鎌田迪貞氏（九州電力株式会社相談役）には、平成22年5月から平成26年12月までの4年7カ月、理事長を務めていただきました。本法人の教育研究・医療の発展にご尽力いただき、本当にありがとうございました。

写真は外務省の「KAKEHASHIプロジェクト」の修了証書。福岡大学工学部社会デザイン工学科4年次生の3人が第3回「サイエンス・インカレ」で日本技術士会会長賞と企業賞の二つの賞を受賞。それがきっかけとなり、「KAKEHASHIプロジェクト」に選ばれ、2014年9月、米国で研究発表を行い、日本の科学技術力を発信、米国の若手サイエンティストとの交流も深めました。詳しくは11～12ページをご覧ください。

建学の精神

思想堅実・穏健中正・質実剛健・積極進取

教育研究の理念

「人材教育」と「人間教育」の共存
「学部教育」と「総合教育」の共存
「地 域 性」と「国 際 性」の共存

福岡大学の教育研究は、「建学の精神」に基づいた全人教育を理想とし、この三つの共存をはかることによって、真理と自由を追求し、自発的で創造性豊かな人間を育成し、社会の発展に寄与することを目的とする。

CONTENTS

No.48 January,2015

福岡大学 学園通信 人と夢を紡ぐ コミュニケーションマガジン

「福岡大学学園通信」は、人と夢を紡ぐ在学生のためのコミュニケーション誌。そして福岡大学の現状や学生の活躍、医療活動などを掲載する広報誌です。在学生だけでなく、保護者の皆さま、地域の皆さまなどにも広くご覧いただいています。

「共　に」

3 特集
福岡大学が取り組む高等学校との教育連携

11 FUKUDIARY
「サイエンス・インカレ」でダブル受賞
外務省から選抜されて
「ＫＡＫＥＨＡＳＨＩプロジェクト」に参加

13 充実 CAMPUS LIFE
理学部地球圏科学科　4年次生
中村 敏之さん

15 時代を駆ける先輩たち
西日本シティ銀行　副頭取
川本 悠一さん

19 研究室を訪ねて
柴田 久 工学部社会デザイン工学科 教授
魅力ある空間が人の笑顔を生み
多くの笑顔が社会を変えていく

21 講義ライブ90分
共通教育科目 総合教養科目
「法律学概論（大学生活と法律問題）」
大学生活で起きるトラブル
その解決に役立つ法律の基礎を体系的に学ぶ

23 情熱の証
学術文化部会 経営学研究部
体育部会 バスケットボール部

25 就活メモリー
株式会社西日本シティ銀行 西新町支店
糸山 勇一郎さん
福岡県 五ヶ山ダム建設事務所 工務課
福島 彩圭さん

27 ヒポクラテスの系譜
福岡大学病院 麻酔科 診療部長
山浦 健 教授（医学部）
麻酔科医は手術室のガーディアン
安全を見極め、患者の命の灯を守る

29 福岡大学の医療展開ニュース
福岡大学筑紫病院リハビリテーション部
診療部長（副病院長）敷形外科部長）
柴田 穣三 教授
急性期リハビリテーションの
拠点として先進医療を支え
地域医療の発展・拡充を担う

31 暮らすめいと
共感力、質問力、感謝力を磨き、
豊かなコミュニケーションを。

33 Global F
福岡大学のグローバル化への
取り組みを紹介します。

35 学生チャレンジプロジェクト

37 ななくま通信

41 第6回 福大生サポート募金
第4回（最終）福岡大学筑紫病院寄付金募集
寄付者ご芳名一覧

— 特 集 —

福岡大学が取り組む 高等学校との教育連携

福岡大学は、高大連携、そして一貫教育プログラムに取り組んでいます。
今回の特集は、これらの取り組みの意義や現状などを紹介します。

豊かで可能性ある未来をつくり 地域と世界に貢献できるように 一人一人の能力を伸ばしていく

未来を担う人材の育成のため、高等学校と大学との教育の接続や連携は不可欠。この活動が焦眉の急とされる社会状況や、福岡大学の取り組みについて、今泉副学長と黒瀬教務部長に聞きました。

新しい時代のニーズに応えるため早い時期からの人材育成が必要

「少子化がますます進み、日本はこれまでにないような人口減少社会に入っています」。今泉副学長は真剣な面持ちで語り始めました。「一方、大学進学率は50パーセントを超え大学はユニバーサル化しています。かつてのように一握りの大学卒エリートが社会をリードするのではなく、大学卒が社会構成員の半数になって、徐々に人口減少が進む日本をそれぞれが支える時代になってきました。また、世界に目を転じればグローバル化は急速に進んでいます。これから若い世代が立ち向かっていかねばならないのは、世界であり、世界中の優秀な人たちなのです」。わが国の未来の中核となり、世界で活躍できる人材。その育成のために、いま大学教育の質の保証が強く求められていますが、それを可能にするためには大学よりもっと早い時期からの取り組みが必要だと副学長は言います。「教育は、従来のような受動的なものではなく、課題発見力・解決力などを養う能動的なものに変わらなければなりません。そのためには能動的な学びを高校生たちに早くから体験させるような取り組みや、自ら考え行動する力を重視した入試改革の推進などが強く求められているのです。また大学は、主体的・能動的な教育を受けた高校生を、責任を持って受け入れ、育成し、優れた人材として社会に送り出さなければなりません」。

福岡大学は長年にわたり地域と共に発展してきた歴史と伝統があります。「本学は、二つの附属高等学校を含め、地域の高等学校と教育の連携を積極的に行い、地域に貢献する義務があるのです」。副学長の言葉に続き、黒瀬教務部長は「2006年に本学は、知識基盤社会の形成に向け検討を始め、大学教育の質を保証するためには、高校教育段階からの取り組みが必要であると考え、高校との積極的な教育連携を推進する方向性を打ち出しました。同時に地域社会における教育の向上は、大学としての重要な社会貢献の一つであると考えました」と本学と高校との教育連携の経緯を語りました。

附属若葉高等学校との高大一貫教育

教務部長は続けて「若葉高等学校は、2010年から本学の附属高等学校になりました。本学と若葉高校のキーワードは高大一貫教育。高等学校との教育連携の理想的なモデルとなるように、大学として数年にわたり準備してきました。高大一貫教育では、大学入試に特化した教育指導や偏差値中心の進学指導等を廃し、高等学校として本来あるべき教育の姿に立ち返り、学士課程教育に必要とされる基礎学力や人間力を養成することを目標としています。高大一貫教育プログラムは、福岡大学進路講話、出張講義、考える力養成ワークショップ、課題研究、若葉フォリオ、模擬講義など、多彩な内容で構成されます。プログラムの終了後、高校3年間の修学および生活の記録を基にその達成度を審査し、大学が求める水準に達した生徒を福岡大学が受け入れることになります。スポーツ、文化、生徒会等の課外活動や校外での各種ボランティア活動への積極的な参加も審査の対象となります」。プログラムの運営に関しては「若葉高校と福岡大学双方で、30人くらいの構成員からなる附属若葉高等学校一貫教育委員会を設置し、高大一貫教育全般に関する事項を定期的に審議しています」。

教学担当副学長
今泉 博国 教授（経済学部）

「高等学校教育を課題発見力・解決力などを養う能動的なものにするためには、大学での学びを高校の生徒たちに早くから体験させるような高大接続への取り組みが強く求められています」。

一貫教育プログラムの内容に関する教務部長の説明を以下にまとめてみます。若葉高校入学直後の5月、副学長や教務部長が高校で行う「福岡大学進路講話」。本学の教員が若葉高校に出向き、1年生を対象に行う「出張講義」。2年生が福岡大学に出向き、9学部から2学部を選択して2時限分の講義を受ける「模擬講義」。そして本学の大学教員と若葉高校の先生方が考えた50ほどのキーワードを基に自分たちでテーマを決め、半年ほどかけて研究する「課題研究」。年度末の発表会には本学の教員が出席して、優秀な課題研究を表彰します。1年生はグループで、2年生は個人で課題研究を行います。さらに、大学での能動的・主体的な学びを実践する「考える力養成ワークショップ」。生徒たちはこのワークショップを通して考える力、共働する力などを養います。また「若葉フォリオ」は、その時々の修学や生活の状況を3年間にわたり生徒自身が記録するポートフォリオ。自分の目標、学習や活動の成果を明確にすることができ「自分磨き・自分探し」をするためのものです。

附属大濠高等学校との教育連携

「もう一つの附属高等学校である大濠高校は1948年の創立以来、本学と共に歩んできました。大濠高校は進学校としての地位を確立するとともに、附属推薦制度を軸に、福岡大学と長く連携してきました」と教務部長。「若葉高校との一貫教育を機として、大濠高校とも教育連携をさらに深めるため、2011年度から大濠高校2年生全員を対象とした「福大講座」を始めました。このプログラムでは、七隈キャンパスで福岡大学全学部が提供する授業のいずれかを選択し、専門の先生から授業を受けることができます。学問や研究とはどういうものであるかを知り、大学での学びを実体験し、大学入学へのモチベーションを高めることができます。附属高校の生徒として、福岡大学を知る良い機会となっています。私たちと大濠高校の校長をはじめ役職による懇話会で、今後の大学と大濠高校の教育連携の在り方を模索しています。後述のアカデミアシリーズもこの懇話会からスタートしました。若葉高校とは違ったプログラムで、大濠高校とより深い教育連携ができれば」と教務部長が述べます。また、副学長は「二つの附属高校は、まさしく本学における高校と大学との教育連携の両軸です。本学とこの2校との共働の一つ一つは、高校と大学との教育連携の良いモデルとなるでしょう」と語りました。

教務部長
黒瀬 秀樹 教授（理学部）

「本学は2006年に『高大連携推進委員会』を設立し、『高大連携→接続→一貫』という学長宣言の下、この三つの概念に沿った取り組みを進めています」。

福岡大学と福岡市の包括協定に基づく福岡市立高等学校との連携

2014年3月、福岡大学と福岡市は「地域の発展と人材の育成」を目的に、包括的な協定を結び、広範な分野で一層の連携を図っていくことになりました。この協定の九つの連携項目の先頭に教育があり、本学は今後も、地域に根差す大学として、福翔高校、博多工業高校、福岡女子高校、福岡西陵高校の市立四高校との連携をさらに推進する予定です。福岡市との連携の始まりは「教育に関する連携協定書」を取り交わした1997年にさかのぼります。最近では、2013年に福岡西陵高校の管弦楽部と福岡大学交響楽団の合同演奏会が実現しました。包括協定に関しては、福岡市からも今後の展開に大きな期待が寄せられています。副学長は「福岡大学ビジョン2014−2023には、『福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進』が掲げられています。市立高校との連携を、このビジョンの具体的施策として、是非推進していきたい」と抱負を語りました。

社会貢献として推進する高等学校との教育連携

「先述の他、高等学校との教育連携については、一般の高校へ本学の教員が出張して行う模擬講義や、高校生が本学において通常の授業を受講する『福岡大学で学ぶ』などの取り組みを行っています。2013年度は158の高校において、184の模擬講義を行いました。また、延べ13人の高校生が『福岡大学で学ぶ』で本学の授業を受講しました。いずれの事業も、生徒の高等教育機関への進学意欲の高揚を図り、地域の知識基盤社会の形成に資することを目指すものです」。副学長はこれらの取り組みの目的をそう語りました。

急速に変化を遂げていく未来社会の中で、新しいニーズに応えていく教育、すなわち今後の高大連携の取り組みは大きな意義を持っているのです。

福岡大学附属大濠高等学校

長い歴史から生まれた連携

1948年、福岡大学の前身「福岡外事専門学校」附属大濠中学校として創立。1951年、大濠高等学校も設立。以来、60年余、同校は福岡大学の附属校として躍進を遂げ、2012年から男女共学を開始。本学との連携においても新しい歴史が始まりました。

「福大講座」や医学部の講座で実感する七隈キャンパスでの学び

2011年度から始まった「福大講座」に加え、2014年度からは医学部講座「アカデミアシリーズ」が立ち上がりました。これは福岡大学医学部が支援する、中学1年生から高校3年生までを対象にした医学入門講座。福岡大学病院メディカルホールでの教授陣の講義などが組み込まれています。このほかにも、外国人留学生を招いての対話・討論会（国際研修）、教員の相互交流、教育実習生の受け入れ、施設利用や部活動の合同練習・共同研究等も行われています。

STUDENTS' VOICE

高校在学中に福岡大学を訪れ ここで学ぼうと心に決めた あの日が確かな夢の出発点

高校時代から、数学教師になるのが夢。それには福岡大学の応用数学科に進むのが自分にとってベストだと思った高校2年生の時から、担任の先生のアドバイスも参考にして、推薦入学を念頭に日々の勉強に一層注力しました。そして高校3年生の時、福岡大学を訪れた際の印象は、今でも鮮明に覚えています。広々としたキャンパスに満ちあふれる活気、建ち並ぶ校舎を彩る木々の緑の鮮やかさ。高校とは異なるスケールの中、生き生きとした先輩たちの姿を見て「ここで学びたい」という思いがさらに強くなりました。入学後は、同じ大濠高校出身の教師志望の仲間とも励まし合いながら、夢の実現に向けて教職科目に力を入れるなど努力を重ねています。卒業後は数学教師として母校・大濠高校の教壇に立ち、生徒たちに福岡大学の素晴らしさを伝えたいです。

理学部応用数学科 2年次生
小山 修斗 さん
［大濠高校 進学コース卒業］

■福大講座（2014年実施講座）

講義	実施学部	講義担当者	講義テーマ
模擬講義1（9:50〜10:50）	人文学部	福嶋　寛之	植民地と福岡大学、そして大濠高校
	法学部	山下　恭弘	自衛隊の「海外派兵」について
	経済学部	藤本　浩明	法学部および経済学部で学んだことについて
	理学部	藤木　淳	作図問題にひそむ方程式
	工学部	松岡　毅	制御、メカトロニクス、そしてロボット
	医学部	村瀬　邦崇	医学部ってどんなとこ？医師の生活ってどんな生活？
	薬学部	鹿志毛 信広	感染症の治療薬
模擬講義2（11:10〜12:10）	人文学部	毛利　史生	日本人の英文法
	経済学部	中島　章子	社会科学、経済学および平和について
	商学部	藤野　真	Managing People 'Spiritually'（従業員を「スピリチュアルに」管理する）
	理学部	林田　修	身の回りの化学、大学の化学、その先の化学
	工学部	趙　翔	夢をカタチにする――。それが「建築」の醍醐味。
	薬学部	鹿志毛 信広	感染症の治療薬
	スポーツ科学部	布目　寛幸	サッカー無回転フリーキックの科学

校長インタビュー

能動的な学びの大切さを体験 男女共学化に伴い 福岡大学との 新たな歴史が始まる

福岡大学との連携の一環として「福大講座」があります。学びの幅広さは、西日本屈指の総合大学である福岡大学ならでは。生徒は自分で考える力、答えを見つけ出す力など能動的な学びの大切さに気付く機会になっているようです。また、医師を目指す生徒も多いため「アカデミアシリーズ」というプログラムを福岡大学医学部の協力を仰いで始めました。これは、生徒たちに医師の役割やモラル、心構えを知り、生涯医師であり続けることの覚悟を促すことを目的としています。さらに、異文化・外国語体験、留学への刺激などを目的として、毎年9月に福岡大学の外国人留学生を招き、1年生の生徒たちが対話・討論会などを通して交流を図っています。2014年度は14人の留学生と交流を深めました。

男女共学化に伴い「理系の大濠」という評価に期待して入学してきた女子生徒の理系進学希望への対応等、今、新たな局面を迎えています。福岡大学は文系の多彩さに加え、理系学部も充実しており、それらを加味したより一層の幅広く強い高大接続を考えています。

福岡大学附属大濠中学校・高等学校
校長 相良 浩文

「本校は中高一貫コースの併設、男女共学化という変遷に伴い、中高一貫教育、女子生徒の理系進学など新たな局面を加味した、福岡大学とのより一層の結び付きを考えています」。

教育への共感から始まった「高大一貫」

福岡大学附属若葉高等学校

創立100年を超える伝統の私立女子高。その建学の理念が、全人教育を掲げる福岡大学の教育理念と相通じることを確認し、2010年、若葉高等学校と改称し附属校に。理想的で強固な高大一貫教育(7〜9カ年)の実践を共に進めています。

大学や社会が求める力を入学前に培う高大一貫教育プログラム

若葉高校には、「福大コース」「特別進学コース」「進学コース」「国際コース」「進学体育コース」の計5つのコースがあり、「福大コース」では高大一貫教育プログラムのもと附属推薦制度を利用して福岡大学へ進学することができます。「福大コース」や「国際コース」の生徒は、前述の「課題研究」や「考える力養成ワークショップ」等の受講を通して、大学生として必要となる文章作成能力、ディスカッション能力、チーム力を培う貴重な経験を大学入学前から得ることができるのです。

STUDENTS' VOICE

課題研究や模擬講義などを通じていち早く身に付いた「主体的に学ぶ姿勢」

グループで議論を重ねて発表を行うのは、高校時代の課題研究も、大学のゼミも同じ。この課題研究や模擬講義、出張講義と合わせて、高校生の時から大学らしい主体的な学び方を体験できたおかげで、大学の授業にもすぐに慣れ、レポート作成などに戸惑うこともありませんでした。高校2年生の時に参加した考える力養成ワークショップで、グループで議論を深めて結論を出し、発表するプロセスを実体験できたのもよかったと思います。物事を体系的に捉える目を養い、大学の授業も受け身でなく主体的に考える訓練になりました。また、後から勉強の進み具合を自分自身でチェックできる「若葉フォリオ」は、今でも大学での学びや自習の進捗管理などに活用しています。特に学修計画と定期試験の準備では、高校時代以上に重宝しています。

法学部経営法学科 2年次生
長谷川 愛 さん
[若葉高校 福大コース卒業]

若葉高校全生徒のための修学履歴ノート「若葉フォリオ」

校長インタビュー

21世紀社会の発展に貢献できる人材の育成 グローバル教育の連携も視野に入れて

若葉高等学校は、「強く、正しく、優しく」の校訓の下、社会に貢献できる有能な女性の育成に努めてきました。2010年に福岡大学の附属高校となったのは、新しい時代における教育の在り方を共に検討する中で、人間教育を志向する福岡大学の「建学の精神」や「教育研究の理念」に共感を覚え、21世紀社会の発展に貢献する人材を育成することができると確信したからです。

当初から前提となっていたのは、高大一貫教育。福岡大学との一貫教育プログラムを軸に、大学教育へのスムーズな移行を可能にする取り組みを展開しています。特に、プログラムの中で行われる福岡大学の先生方による講話や模擬講義は、本校生徒にとって、大きな成長の糧となっています。今日のグローバル社会で生きていくには、相手の考えを受け止め、人間関係をつくり共生できる能力が必要になります。今後は、福岡大学のグローバル教育とつながりを持たせ、本校との連携ができるよう共に考えていきたいと思います。

福岡大学附属若葉高等学校
校長 小野澤 昇

「本校が福岡大学の附属校になるに当たり、一貫教育を行うことが前提でした。そして今、福岡大学との強い絆により、大学教育へのスムーズな移行を可能にする取り組みを展開しています」。

■考える力養成ワークショップ(2014年8月7日、8日実施)

2014年8月7日、8日に福岡大学中央図書館1階の多目的ホールで行われた「考える力養成ワークショップ」の様子。商学部村上教授とゼミ生の指導の下、若葉高校生徒約30人が4・5人のグループに分かれて体系的な考え方について学んだ。1日目はそれぞれのテーマに沿って自分たちでアイディアを出し合い、2日目は各グループの発表を行った。

「サイエンス・インカレ」でダブル受賞 外務省から選抜されて「KAKEHASHIプロジェクト」に参加

2014年3月、自然科学分野を学ぶ学生が自主研究の成果を発表する「サイエンス・インカレ」(主催:文部科学省)で、工学部社会デザイン工学科の平川裕也さん、坂本慎也さん、西将太郎さんのチームが、日本技術士会会長賞と企業賞のダブル受賞を果たしました。また、外務省の「KAKEHASHIプロジェクト」にも選ばれ、2014年9月にはアメリカでも研究発表の舞台に。力を合わせて福岡大学でかなえた大きな夢、その軌跡を聞きました。

3人で挑んだ大舞台 培ったのはチーム力と自信

―「サイエンス・インカレ」に参加したきっかけは何ですか。

平川　3人とも3年次生の9月に地盤環境工学が専門の佐藤研一先生の研究室に仮配属され、サイエンス・インカレの存在を知りました。私は人前で話すのが苦手だったので、大舞台を経験すれば、克服できるのではと考えました。

坂本　第1回、第2回の受賞者もこの研究室から出ていることを知り、ゼミの同じ班だった3人で第3回に挑むことを決めました。私は、就職活動を控えていたので、社会人と接したり、プレゼン力を鍛えるいい機会になりそうだとも思いました。

西　私も大学生活で何か大きなチャレンジをしたくて参加しました。

―発表に至るまでの工夫や努力について聞かせてください。

西　今回のようにテーマ設定をして、一から研究をつくり上げていくのは初めてでした。「サイエンス・インカレ」の本番は3月でしたが、レジュメを提出する書類審査が11月と2カ月弱しかなかったので、まずはそれに向けて準備を始めました。最初は、何から進めていいか分からず、先生や院生の先輩からのアドバイスを頼りに進めました。

平川　専門知識のない方が見ても理解できるように気を付けながら、私たちの実験の概要をまとめてみましたが、先生や先輩方から「分かりにくい」と指摘を受け、何度も改良を重ねました。ご指導のおかげで、書類審査を通過。その後も、実験に必要な浄水汚泥が手に入らず、先生方の協力を得て福岡市に掛け合い、浄水場まで取りに行くなど、さまざまなサポートをしていただきました。

坂本　実験は、試料を作り、6時間ふるいにかけてからろ過・分析を行うので、半日を要します。1日に何本も並行するため、研究室で朝を迎えることも珍しくありませんでした。就職活動と重なっていて、時間を捻出するのも一苦労でした。

西　チームで取り組む心強さもありますが、予定を合わせるのが難しく、衝突しそうになる場面も正直ありました。しかし、お互いを思いやる気持ちを忘れてはいけないと思い直し、団結力を高めていくことができました。

平川　数カ月かけて研究をまとめ上げ、その集大成として発表用のパワーポイントを作成しました。プレゼン時間は15分だったので、その時間内に収まるように構成しましたが、実際に3人で練習してみるとどうしても収まらず、削っては練習、削っては練習の繰り返しでした。

坂本　立ち止まっている時間はなかったので、とにかく走り続けました。プレゼン前日でもまだ18分かかっていて、3人で頭を抱えましたが、当日は何とか15分に収まって、ほっとしました。

15分のプレゼンは、3人で5分ずつ担当。アメリカでは、落ち着いてプレゼンすることができた。

―発表当日はどうでしたか。

平川　当日、いざ話し始めると、自分の声が震えていることに気付きました。

坂本　私たちにとっては初めての大舞台での発表で、本当に緊張しました。さまざまな専門分野の方々からも、想定していた以上にたくさんの質問をいただきました。しかし、それにうまく答えることができず、「失敗した」とうなだれ、結果発表の前にホテルに帰ったほどでした。

西　3人とも落ち込んでいたので、まさか二つの賞をいただけるなんて思ってもみませんでした。新たに何かをつくるという視点の研究が多かった中で、私たちの、捨てるはずのものから価値をつくる視点が評価されたことを本当にうれしく思います。先生や先輩方のおかげです。

―「KAKEHASHIプロジェクト」に選ばれた感想と準備について聞かせてください。

坂本　選ばれた連絡をメールで受けた時は、正直に言うと、うれしさよりも不安が勝っていました。就職活動、卒業論文の準備と重なる時期の渡米でしたし、英語力にも不安がありました。

西　アメリカでは、「サイエンス・インカレ」での研究を、英語で発表するということで、まずは自分たちで英訳しました。それから国際センターの佐々木先生に見ていただき、改良を重ねました。こうしたサポートを受けられたのも総合大学である福岡大学の強みだと実感し、とても心強かったです。

平川　3人とも英語が苦手だったので、佐々木先生に何度もプレゼンを聞いてもらい、発音や表現に改良を加えていきました。

知的好奇心を刺激されたアメリカでの研究発表

―「KAKEHASHIプロジェクト」に参加した感想を聞かせてください。

平川　「KAKEHASHIプロジェクト」に選ばれたのは全国で23人。九州からは私たちだけでしたが、アメリカへたつ前に国内で研修が行われ、そこで関東・関西の学生たちのプレゼンテーション能力と英語力に圧倒されました。

西　物おじせず、堂々と研究発表をする彼らを見て、くじけそうになりました。しかし、3人で「これは勝負じゃない。チームで挑んでいるのだから、競う気持ちや焦りは忘れよう。力を合わせて乗り切ろう」と気持ちを切り換えました。

坂本　アメリカでは、大学や研究機関、企業など、普段は行けないような貴重な研究環境を見学することができました。福岡大学の研究環境も恵まれていますが、アメリカの最先端の施設を見て、知的好奇心を刺激されました。

西　また各機関の先生方や学生の発表を間近で見て、その訴えるパワーにも驚かされました。目を合わせ、反応を見ながら、臨機応変に言葉を紡いでいく彼らのプレゼンテーションに憧れました。

―今後の夢や目標を教えてください。

平川　私は大学院に進学予定です。今回、「サイエンス・インカレ」に参加して、誇らしい賞をいただきましたが、自分に足りない部分も発見しました。今後は、そうした未熟な部分を強化し、また海外で研究を発表できるよう努力します。幅広い視点を持つために、海外に長期留学することにも興味を持っています。

西　私も「サイエンス・インカレ」を経て、大学院への進学を決意しました。佐藤先生の研究室で社会に役立つ研究をし、後輩たちの手本となれるような実績を積み重ねていきたいと考えています。

坂本　私は卒業後、道路関係の会社に入社します。早く一人前になり、社会の役に立てるよう日々勉強を重ねていきます。

―それぞれの、新しい道でのチャレンジ。今回の経験を生かして頑張ってください。

■「KAKEHASHIプロジェクト」の米国渡航行程表

	日付	プログラム
1日目	8/31	各地出発～東京到着
2日目	9/1	出発前オリエンテーション(都内)
3日目	9/2	日本発→ワシントンD.C.着→オリエンテーション
4日目	9/3	プレゼンテーション練習→メリーランド大学訪問
5日目	9/4	アメリカ国立衛生研究所(NIH)→スミソニアン協会国立航空宇宙博物館 他見学
6日目	9/5	エア・リキード社訪問→デラウェア大学(ホスト校)
7日目	9/6	ニューアーク視察
8日目	9/7	フィラデルフィア視察
9日目	9/8	学校交流または企業・団体訪問→アメリカ自然史博物館 他見学
10日目	9/9	学校交流または企業・団体訪問
11日目	9/10	ブルックヘブン国立研究所(BNL)訪問
12日目	9/11	ニューヨーク発
13日目	9/12	日本着

表彰式での工学部社会デザイン工学科、平川裕也さん(左)、坂本慎也さん(中)、西将太郎さん(右)。研究テーマは「再生半水石膏から溶出するフッ素が危険!? 浄水汚泥を使って環境に優しい不溶化材作りに挑む!!!」。

3人に企業賞を授賞したエア・リキードの本社前にて。「アメリカの最先端の研究環境を見学し、高揚した」と3人。

「KAKEHASHIプロジェクト」に選抜され、全国から集まった精鋭たちとニューヨークの自由の女神をバックに。

本学のGAP「留学準備Ⅱ」の授業で、英語でのプレゼンテーションを披露。堂々とした発表に学友たちからも感嘆の声が。

充実 CAMPUS LIFE

自分だけのキャンパスライフがある。ここならきっと見つけられる。例えば、生き物や自然から多くを学び、自分らしい将来への扉を開いた中村さんのように。

大学での学びと多くの体験で自然の偉大さや有り難みを実感。その経験を社会で生かす。

理学部地球圏科学科 4年次生

中村 敏之さん

生体のメカニズムに着目し自然と寄り添うことで自分らしい未来が開けた

「生きているって、すごいことです」。そう話す中村さんは、1・2年次の自然科学全般の基礎学習で生体の不思議さに興味を持ち、3年次から生物学分野を学んでいます。所属する細胞生物学研究室では、昆虫の体の構造や機能を細胞レベルで考察しています。「現在は卒業論文のため、鱗翅目（蝶）の幼虫の触角に着目し、触角に分布する感覚子を形態学的に分類し機能を解析しています。実験を重ね、生体の根源に迫るたびに、命の尊さにあらためて気付かされます」と柔和な笑顔を浮かべます。

中村さんは正課外活動にも熱心。3年次には学生部主催の「北海道夏期セミナー」に参加しました。この時、宿泊先の農家の方との触れ合いを通して、大きな感銘を受けることに。「そこのご夫婦は『天候に左右される農業は収入が不安定。それでも多くの人々に食糧を届けるため、日々の暮らしを支えるために、辞めるわけにはいかない』と語ってくれました。その言葉から感じた農業を守っていくという志の高さ、そして自然を相手に仕事をする職業人としての覚悟や誇り。その一つ一つが刺激となり、自分の生き方を見詰め直すきっかけにもなりました」。

セミナーを終えてから程なくして、中村さんは不慮の交通事故で足に大けがを負い入院。大学を休学し、治療に専念することを余儀なくされました。復学を果たしたのは約1年後。止まっていたような時間を取り戻したい気持ちが強かった中村さんは、何か行動を起こしたいと「夏季インターンシップ」に挑戦します。足のけがが完治していなかったため、「デスクワーク中心の企業を探すことに。目に留まったのが、インターネットテレビの番組制作会社でした。15日間の研修では、取材見学やテロップの作成、貼り付けといった映像制作などを体験。「業界の現場を知って視野が広がり、新しい人脈もつくれました。苦手なパソコン操作が上達したことも得られた成果の一つです」と振り返ります。

その後、就職活動を経て、大手製薬会社の内定を獲得。実は入院中から同社を志望していたと中村さんは言います。「長期間の薬の服用で胃に痛みを覚えてから、漢方薬に注目するようになりました。漢方薬は自然薬草が主原料で体への負担が比較的少ない薬。実際に私も胃の痛みが緩和したので、その魅力を広めることが効果を実感した私の使命と感じたのです」。

最後に今後の抱負を尋ねると「福大での学びや多くの体験を通して、自然の偉大さや有り難みにあらためて気付かされました。その経験を仕事や社会で生かせるよう挑戦したいです」と、中村さんらしい答えが返ってきました。

1 9泊10日の北海道夏期セミナーで北海道を一周。陸別町で班のメンバーと記念撮影 2 インターンシップ先で映像にテロップを貼り付ける作業中の中村さん 3 趣味のスキューバダイビングを楽しむ中村さんとサークルの仲間たち。熊本県の天草に沈没船を見に行った時の1枚 4 東日本災害ボランティア「第4次福岡大学派遣隊」に参加。現地では支援物資の仕分けや運搬、被災家屋内の清掃などを体験

卒業論文を学びの集大成に

蝶の幼虫の触角に着目し そのメカニズム解明に挑む

中村さんは「鱗翅目（蝶）の幼虫の触角に着目し、感覚子の種類・分布を解析する」というテーマで卒業論文に取り組んでいます。「昆虫の触角にある感覚子という微小な感覚器には味覚や嗅覚など、人間と同じ感覚機能が備わっています。小さな体でも人間と同じ感覚を持っていることに興味を引かれ、メカニズムを知りたいと思いました」と研究を始めたきっかけを説明します。また、研究には「走査電子顕微鏡」という高度な専門機器が不可欠。細胞生物学に取り組む学生として卒業までに、その操作技術を高めたいとの思いもあるそうです。

研究の成果について尋ねると「感覚子の機能は、生物学会でも全容の解明には至っていません。まずは慎重に観察を繰り返し、機能を解明するためのヒントが得られるよう挑戦すること。そして、研究で得たデータを後輩たちに残し、それぞれの研究に役立ててもらうことです」と、生き生きとした表情で答えてくれました。

走査電子顕微鏡で感覚子の写真を撮影する中村さん。学術的価値の高い写真を撮るには高度な操作技術が必要。

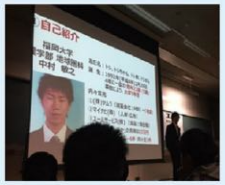
実験用の蝶の幼虫は学内の薬草園で自ら採集。約2～3cmの大きさまで飼育した後、触角を採取する。

自身の就活経験を後輩たちのために

就職活動に励む後輩たちを 学生アドバイザーとして支えたい

企業からの内定を獲得後、後輩たちの就職活動をサポートする「学生アドバイザー」を務める中村さん。「自分の経験を後輩たちのために役立てたいと思ったのはもちろん、卒業までの期間を有意義に過ごしたいという考えがありました」と話します。

また、2014年10月には「就職ガイダンス（応用編）」に発表者として参加。会場に集まった約600人の学生を前に「自分らしく活動し、ありのままの思いをぶつけることが大事」と、体験談を交えながら後輩たちへのエールとして熱く語ったそうです。最後に在学生たちへのアドバイスをお願いしました。「2015年度は企業の採用選考期間が2014年度より短縮されますが、その分、企業研究に時間を掛けたり、早い時期から就職・進路支援センターを積極的に活用したりするなどして、十分に準備すれば大丈夫だと思います。まずは学生アドバイザーや職員の方々に、気軽に相談してください」。



自身の就職活動で得た経験を基に登壇する中村さん。

後輩たちの集団面接の練習では面接官役を担当。

中村さんに聞きました!

卒業までに挑戦したいことは？

ドイツでの農業体験とドイツ語学校への短期留学を予定しています。ドイツはフランスに次ぐ農業大国と言われているので、本場の風土や技術に触れながら日本の農業との違いを見たり、新しい知識を得たりして、視野を広げたいと思っています。

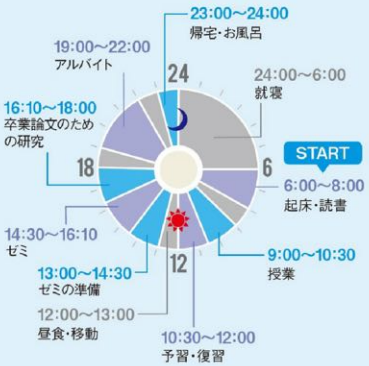
キャンパスライフをひとことで例えると？

「学修」

「学修」とは、能動的・主体的な学びのことです。何事にも挑戦し、未知の知識や経験を修得することは将来の糧となるはず。毎日を有意義に過ごし、少しでも多くのことを吸収したいと思います。

中村さんの1日

［授業で充実している日の平均的なスケジュール］



福岡大学で磨いた共働力とリーダーシップで地域やお客さまと共に成長する九州No.1バンクを目指す。

「北九州・山口」エリアを統括する副頭取。「伝統的に強い取引基盤を生かし、地域と共に繁栄していく銀行を目指したい」と今後の抱負を語る川本さん。

西日本シティ銀行 副頭取
川本 惣一さん
［商学部商学科 1980年卒業］

「率先垂範」をモットーに北九州・山口エリアを統括

「よろしくお願いします」。広い応接室に、朗々として威厳のあるバリトンが響きました。西日本シティ銀行・副頭取という肩書にふさわしい、川本さんの声です。大学時代に合唱をなされていたのですか、と尋ねると「部下にカミナリを落とし続けて鍛えた声ですよ」と破顔一笑。場の雰囲気が、温かく和やかなものに変わりました。

2014年6月、現職就任。名刺にはもう一つ「北九州・山口」代表という肩書が付いています。月曜日以外は小倉の北九州総本部で取り引き先の拡大・強化の陣頭指揮を執る日々。川本さんは自分を、先頭に立って物事を行い模範を示す「率先垂範」型のリーダーだと言います。「とにかく動いて見せる。背中でものを言うタイプです」。「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。連合艦隊司令長官山本五十六は指導の要諦をこう書き残しています。川本さんは行員たちにやってみせ、次は何を言って聞かせているのでしょう。「しっかり考えなさい、ということです。いわゆるPDCA(Plan - Do - Check - Action)サイクルの徹底。PDCAをきちんと回さなければ次の一手は打てません」。「考えさせて、その結果が良ければ褒める。芳しくなければカミナリです」と笑う川本さん。リーダーシップをはじめとする銀行の副頭取としての能力は、幼少時の出会い、福大時代の学び、社会人となってからのさまざまな経験で育まれました。

福岡大学での学びや経験、学風などを語るとき、知らず知らずのうちに熱く雄弁になる。

幼少時に銀行員に憧れるも家業を継ぐ覚悟で商学部へ

福岡市に生まれた川本さん。実家は長浜の魚市場で出荷仲卸業を営んでいました。「地方の市場に魚を出荷し、競りにかける仲卸業です」。幼いころの思い出で印象に残っているのは、ある銀行員との交流。「親父とよく酒を酌み交わしていて。家族みんなとフレンドリーな関係で。人の話を聞くときの誠実な表情や、時折見せる笑顔に優しさがあり淡い憧れを抱いていました」。また、小学校入学前後から珠算と書道を習い、熱心に励んだかいあって珠算は2段、書道は4段の腕前。「初志貫徹。何につけても真剣に立ち向かうタイプでした」。

成長するに連れ少しずつ家業を手伝うようになっていた川本さん。大学進学に際して父から「大学に行ってもいいが、家業はきちんと手伝え」と言い渡されます。「卸しは深夜から毎朝4時前後まで。遠距離通学は大変です。また、将来は家業を継ぐことになると覚悟して商学を学びたいと思いました」。二つの条件をクリアしたのは、自宅に比較的近い七隈にあり、前身が高等商業学校で商学に定評がある福岡大学。「颯爽(さっそう)とした大学のイメージにも引かれて、商学部商学科へ入学しました」。

三苫ゼミでの研修旅行のスナップ。2列3番目が川本さん。「私は別」と謙遜するが、在学中の成績も卒業後の進路も共に優秀なゼミだった。

ゼミで生涯の仲間と出会い学びの中で銀行員への夢を育む

家業と勉強を両立させる生活が始まりました。仕事が終わるとすぐに大学へ。1時限目の授業にも欠かさず出席していたとか。「こうと決めたら、もうぶれない。根っから頑固なのです」。ゼミは商学部の名物先生、簿記論の三苫教授。指導は細部にわたり妥協を許さない厳しいものでしたが「半面、前向きに学ぶ者には優しく、誠心誠意を尽くして教えていただける先生でした」。簿記という実践的な学びはもちろん、生涯の仲間を得たことも大きな収穫でした。「私は別として、三苫ゼミは俊英が集う名門。卒業後は公認会計士や銀行員になる者が多く、同窓会などの集まりでは、いまだに有意義な知識や刺激を得ています」。もう一つの印象的な授業は、阿部先生の「マーケット論」。開発プロジェクトや未来生活への提言まで包括し、都市や地域発展に不可欠なマーケットの存在や面白さに目覚めた授業でした。

やがて就職活動の時期、川本さんの運命は大きく変わりました。父が家業を継がなくてもいい、と告げたのです。「どうも、最初から継がせる気はなかったようです。家業を手伝わせることで社会人としての礼儀や常識を身に付けさせ、大学では学ぶことの有難さを自覚するよう仕向けたのかもしれません」と苦笑する川本さん。あらためて自分の進路を考えた時、浮かんできたのは三苫ゼミや「マーケット論」などでの学び、金融関係に進んだ先輩たちの生き生きとした働きぶり。そして幼いころの、あの銀行員への憧れ。川本さんは進路をはっきりと定め、今度も初志貫徹、頑固に真っすぐに銀行員という難関に挑み、突破したのです。

中列左から2番目が、福大時代の川本さん。大学の学びと毎日の家業の手伝いを両立させ「必死になれば何でもできる」と自信を得た。

珠算は2段。今でも暗算は群を抜いて早い。「銀行員としての基本は、そろばんで身に付けたのかもしれません」。

若き銀行員時代のエピソード「15枚の名刺」と「検討の錯誤」

1980年に福岡相互銀行(後に福岡シティ銀行、現在西日本シティ銀行)に入行。銀行員としての修行時代には、忘れられない多くの出来事がありました。例えば「15枚の名刺」。入行して4年のころ、川本さんは取り引きのない会社に飛び込みで営業をかけていました。社長に会うこともできずむなしく名刺を置いて帰るだけの日々。その名刺が15枚になり16枚目の名刺を出そうとした時、初めて会ってくれたのです。社長は取り引きのない若い銀行員が名刺を置いて帰るのを最初から知っていました。「こんなに名刺を置いていく頑固もんは、どんな奴だと思ってな」。川本さんは、15枚分の思いをほとばしるように話しました。そしてその会社との取引が始まりました。

一方で「検討の錯誤」も心に残るエピソードの一つ。先の出来事から数年後、支店で融資を担当していた川本さんは、相談に来られたお客さまに「検討いたします」と答えました。悪いことに、融資のための銀行の手続きに日数がかかってしまいました。お客さまは、その後の連絡がなかったため他行と契約。「なぜ、まめに連絡しなかったのか、なぜ『検討』というあいまいなことだけを言ったのか。融資の決裁(=許可)が下りていただけに、猛烈に反省しました」。それ以来、お客さまの気持ちに寄り添うこと、誠実に向き合うことが仕事の上での信条になりました。そして2004年、川本さんの銀行員としてのキャリアの中で、最大の出来事が起こります。

合併で生まれた西日本シティ銀行行員の融和を図り躍進に貢献する

旧西日本銀行と旧福岡シティ銀行の合併発表当時、執行役員として小倉支店長兼北九州法人部長を務めていた川本さんは、職務を遂行しつつ、合併という新しい状況に戸惑う行員たちの融和を懸命に図ります。「その時の私たちに必要だったのは、共に思いを分かり合う、共に真価を評価し合う、共に一つの目標に向かい団結することでした」。その時の高揚がよみがえったような熱い面持ちで、川本さんは語りました。共感、共鳴、そして共働。共に人が動く―共働。英語ではシナジー(synergy)と呼ばれ、企業が合併する際に求められる効果としてよく挙げられます。川本さんはこのシナジー効果が、新しく誕生した銀行で最大限に発揮できるよう尽力したのです。「合併の成功は当時のトップや幹部をはじめ、多くの行員の力が結集した結果です。が、もし私の力がいささかでも役に立ったとすれば、それは福岡大学での4年間があったからでしょう」。川本さんはそう言って、遠くを見る目になりました。

個性豊かな人材が数多く集まり互いに交流しながら共働力を磨く

福岡大学は学生の数が多く、しかも個性的な人材が多く集まります。この仲間たちがそれぞれまとまるには、「合わせる」力を、各自が持っていなければなりません。妥協ではなく、懸命に交渉し、本音をぶつけ合い、一つに溶け合って共働する力。「私のように学部学科の学びしか知らない人間でも、この環境の中で鍛えられました。福岡大学は西日本有数のスケールを持つ総合大学です。自分の積極性と比例して、学部学科を超えて共働力を磨く機会は増えてくる。多彩な個性を組み合わせてグループパワーを創造することもできる。福岡大学ではそのような経験を積み重ねて、一人一人が自分らしいリーダーシップも身に付けていけるのです」。

取材を終えて応接室を出ていく川本さんを見送りながら、行員の方に尋ねてみました。「副頭取は怒ると、やはり怖いですか?」。それはもう、と答える言葉とは裏腹に、表情には敬愛の念が深く浮かんでいました。

廊下に降り注ぐ夕陽を受けて、遠ざかる背中がとても広く、大きく見えました。

■ 在学生へのメッセージ ■

「道義必勝」、そして「まじめに まともに しんけんに」

「道義必勝」は、私が少年時に書道を習う際に書いていた言葉です。道義とは人として歩み行うべき正しい道のこと。これを守り続けていれば事において必ず勝つことができます。

「まじめに まともに しんけんに」は、銀行員の先輩から教えられ、心に刺さった言葉です。見せ掛けの仕事では結果は出ません。小ざかしいまねを続けていれば、いつか足元をすくわれます。奇をてらわず正攻法で、誠心誠意に生きていく。どちらも古風に聞こえるかもしれませんが、人生の真理は流行などに左右されないものです。どうぞじっくりとかみしめてください。

地域づくりを支える「景観デザイン」の研究

魅力ある空間が人の笑顔を生み 多くの笑顔が社会を変えていく

工学部社会デザイン工学科 教授
柴田 久

「警固公園再整備事業」のプレゼンテーションで使用した100分の1模型は、オープンキャンパスでも注目の的に。「研究室の活動スタイルは、学生に明確な役割を与えて現場体験を積ませるOJT（on the job training）方式。この模型も学生主導で制作しました」と先生。

防犯と景観の両立を主題に 警固公園再整備事業で グッドデザイン賞を受賞

2014年10月、柴田先生の「景観まちづくり研究室」は「グッドデザイン賞2014」受賞のニュースに沸き立ちました。受賞対象は、先生を中心に、研究室が基本設計を担った「警固公園再整備事業」です。福岡市の中心である天神エリアに位置し、治安の悪化が課題となっていた同公園のデザインを「防犯と景観の両立」をコンセプトに再構築。2012年12月の改修工事竣工後は、治安改善はもとより、利用者、特に女性や子どもの増加や近隣商業施設の活性化などの波及効果をもたらしています。

まちづくりの視点から公共空間のデザインを考える。そのために、住民や利用者の声を聞き、街や地域の課題解決につながる工夫を設計図に盛り込む。それが「景観まちづくり研究室」の研究スタイルです。「警固公園のデザインでは、犯罪の発生が危惧されていた園内の死角を一掃しつつ、園外や隣接する西鉄福岡駅のホームからも園内が見えるレイアウトにするなど、新たなにぎわいの創出につながる提案を行いました。住民アンケートや改修後の検証調査では、学生諸君が大いに活躍してくれました」と、プロジェクトの概要を説明する先生。基本設計の内容はもちろん、社会への波及効果が高く評価された今回の受賞は、先生とともに研究に携わった卒業生や在学生にとっても、大きな達成感と歓喜に満ちたものとなりました。

先生が「景観デザイン」に出合ったのは、「住民参加型のまちづくり」を勉強していた学生時代。先生は「『風景学入門』という本で、構造物単体ではなく、周囲の風景までトータルに考える景観デザインという仕事があると知り、目が覚める思いがしました」と振り返ります。「ちょうどバブル経済がはじけ、都市インフラ整備の在り方が厳しく問われ始めた時期。公園や公共空間の建設に際しても、住民や利用者と話し合い、しっかりと合意形成を図るプロセスが重視され始めていました。これからの時代、公共空間の設計とまちづくりは別々の領域ではなく、地域の広がりと都市の近未来を見据えた大きな視点から考える景観デザインがより強く求められてくるという確信を持って研究を進め、景観デザインとまちづくりの融合というテーマに行き着きました」。

2014年まちづくり計画作成のための住民ワークショップ。学生はグループの進行役として参加し、まちづくりの現場を学んだ。

2014年11月、「グッドデザイン賞2014」授賞式にて。「福岡市や県警、近隣住民の皆さん、そして研究室の学生たち。プロジェクトに関わった全員の努力が報われました」と先生。

各地の自治体に求められ、研究室の学生と共に新たな「景観まちづくり」案件に挑む

景観デザインに際して特に重視する点を先生に尋ねると、まず「笑顔」という答えが返ってきました。「どんなに整然とデザインされた公園でも、利用者が楽しげにしていない場所は美しくないと私は思います。警固公園では『ここに見晴らしが楽しめる芝生の丘を配したら、広場越しに子どもたちが遊んでいる様子も見える』と、利用者の笑顔を立体的にイメージしながら平面図を引きました」。

次の返答は「空間と社会の循環」。「魅力ある公共空間が社会の活性化を促し、そのような社会が空間をさらに魅力あるものにする。言うなればプラスの循環関係を引き起こす景観デザインを手掛けた全国各地の空間から、その思いにかなうような、地域を元気にする好循環が次々と生まれています。例えば大分県津久見市の「湧水めだか公園」では、地域の有志が竣工後の維持管理を担当。小学生の自然学習の場としても活用され、ワークショップに携わった学生は卒業後、「まちづくりを自ら担いたい」と津久見市役所に入職しました。同様に、地域観光振興の起爆剤となった福岡県宗像市の海洋体験施設「うみんぐ大島」や今回の警固公園でもプラスの循環が定着。さらにはJICAの要請で2011年に始まった南米コロンビアの公園設計ミッションは、周辺の住居設計など街区全体のデザインまで規模を拡大して継続中です。

先生はまた、2009年に福岡大学の在外研究員制度を活用してカリフォルニア大学バークレー校に客員研究員として赴任。旧知の世界的コミュニティーデザイナー、ランドルフ・T・ヘスター氏の下で生態系に配慮するランドスケープデザインを学ぶなど新たな知見を吸収しました。帰国後は、学内で「環境共生のまちづくりを考える」と題したシンポジウムを主催するなど、豊富な知識や経験を循環・共有する活動にも意欲的です。

現在も、各地の自治体から依頼を受けたまちづくり案件が進行中で、研究室の学生と一緒に、今日は大分佐伯へ、明日は長崎五島へと、多忙な日々を送る先生。情熱溢れる活動が、たくさんの笑顔をもたらす景観デザインを育みます。

警固公園のデザイン案について、研究室の学生とディスカッションを交わす。

公園の北西部と東南部を一直線につなぐ中央園路を新設。利用者の往来と見通しの向上を実現しています。また芝生スペースにLED照明を組み込んだ石のベンチを配するなど、市民の憩いを演出する工夫が随所に。

研究室で発見！ 先生モノ語り

歴代の卒業生が残した10年分のサプライズ

「景観まちづくり研究室」には、歴代の卒業生が先生に贈った記念の品々が飾られています。「これは研究室の20分の1模型。机の形状や小物、端末の画面まで忠実に再現した力作です。情報誌や業界誌になぞらえたゼミ生紹介本やDVDも、全て学生の手作り。毎年、渡す直前まで私に知らせずコツコツ制作し、プレゼントしてくれます。最高の宝物ですね」。研究室は、2014年で10周年。2014年の11月8日にはヘリオスホールに全国で活躍する卒業生と在学生が集まり、10周年記念会が盛大に行われました。

学生は編集やデザインなどのソフトの操作もお手のもの。記念誌やDVDはプロ顔負けの仕上がりです。

講義ライブ90分

共通教育科目 総合教養科目

「法律学概論（大学生活と法律問題）」

「法律学概論（大学生活と法律問題）」は、学部・学科を問わず履修できる共通教育科目です。授業では身近に起きる法律問題の具体例をテーマにして法的な知識を学び、さまざまな解決の可能性を探ります。

大学生活で起きるトラブル その解決に役立つ 法律の基礎を体系的に学ぶ

板書しながら事前に配布されたプリントの法律問題を丁寧に説明。「黒板の内容をメモして自分なりのノートをつくるのも勉強」と先生は語る。

自分たちが直面するかもしれない現実的な問題に対処できるよう

大学生活の中で直面する可能性のある現実的な問題に対し、冷静に対処するための法的素養を身に付けることを学修目標にしている「法律学概論（大学生活と法律問題）」。担当の野田龍一先生は「大学生になると一人暮らしやアルバイト、サークル活動を始めるなど、行動範囲の広がりとともに社会との接点が増え、さまざまな問題やトラブルに遭遇する恐れがあります。そうした事態に備えて、法的観点から学生をサポートしたい。法律の基礎を体系的に学び、解決のすべを共に考え、実生活に役立ててほしい」と熱を込めて話します。

全15回の授業で取り上げるテーマは、「アパート・マンションの賃貸借契約」「飲酒運転」「就職活動における内々定と内定」についてなど、学生の日常に関わる事柄ばかり。テーマの選定に関して先生に尋ねると「この授業では、難しい法律の専門用語や抽象的な話は避け、興味を持って分かりやすく学べるよう身近な題材を用いるようにしています。『今』を意識したテーマを選び、年度によって授業内容を変化させていることもポイントです。前期の授業で取り上げた携帯電話契約における法律問題などは、その代表例といえます」という答えが返ってきました。

授業の特徴は、先生の質問に学生が気軽に解答できるよう「YES」を意味する緑と「NO」を意味する赤のカードを使用すること。双方向の授業で参加意識を高め、より意欲的に学んでもらうのが狙いだとか。学生にとって実のある授業を行うために、各人のカードの提示具合で関心度や理解度を確認する意図もあります。

重要なのは法律の原理原則を理解し各事例を複合的に考察すること

7回目となるこの日の授業のテーマは「アルバイトにおける法律の諸問題」。最初に労働契約の要点をまとめたプリントと、恒例の解答用カードが配られました。冒頭は「労災保険」について。早速、先生は具体的な事例を挙げ、問題を提起します。「ある人がアルバイト中にやけどを負ってしまい、店長に労災の申請を申し出たとします。すると店長は、正社員ではないので労災は使えないと言いました」。続けて学生に質問します。「果たして、それは妥当でしょうか？バイトであっても労災は使えると思う人は緑、使えないと思う人は赤のカードをあげてください」。このケースでは、緑のカードを提示する学生の方が多いようです。「正解は緑。アルバイトは労働契約に該当し、バイトも正社員と同じ労働者です。労災は全ての労働者が対象となるので、アルバイトにも適用されてしかるべきです」と、先生は労災の原理原則を説明します。時折、こうした問い掛けを交えながら、授業は2014年10月に改定されたばかりの「最低賃金」の話題へ。まず福岡県の最低賃金が727円であることが示されました。それを基準に、学生はプリントに書かれた800円台から600円台の金額の横の空欄に都道府県名を記入する穴埋め問題に取り組み、最低賃金が全国一律ではないことを学びます。正解を告げた後、先生は「重要なのは、最低賃金に通勤費は含まれないということ」と学生にメモを取るよう促します。真剣にノートに向かう姿に、関心の高さが感じられます。その後「労働時間と休憩時間の定義」や「給与の毎月払いの原則」といった内容にも触れ、日常に潜む不利益を被る危険性を提示しながら、問題意識を持つことの重要性を語り掛けました。最後は学内や近隣の無料の法律相談所を紹介。「もし困ったことが起きたら、気軽に相談してください」と先生。実生活に密接した授業にふさわしい締めくくりでした。

授業後、先生は学生たちの成長への期待を込めて、こう話してくれました。「授業で取り上げた事例の解決法については答えを与えます。しかし、それを知識として習得するのが目的ではありません。大切なのは類似した問題に直面した際にも、自ら解決できる応用力を身に付けること。それには法律の原理原則を理解し、各事例を関連付けて捉え、何が正しいのかを自分で判断することが重要なのです。そうして得た学びは、将来の暮らしの支えとなります」。

一斉に解答用のカードをあげる学生たち。この日は計7回の質問が投げ掛けられた。

Students' voice

成人と未成年に関する法律を学び、大人としての責任を自覚しました。

人文学部教育・臨床心理学科 3年次生　南﨑 優花さん

目標である臨床心理士になったとき、法律の知識を学んでおくことで活躍の場が広がると思い、履修しました。これまでの授業で印象に残っているのは、成人と未成年では関係する法律が異なるのだと気付かされたこと。それは大人として行動することの重要性や社会での責任を自覚するきっかけになりました。実生活に役立つ内容なので、毎回授業を受けるのが楽しみです。

面白く、分かりやすく学べるのでスムーズに授業に入り込めます。

商学部経営学科 2年次生　坂口 春菜さん

シラバスを見て日常生活に役立つと感じ、この授業の履修を決めました。毎回、解答用のカードを使い、面白く学べるのでスムーズに授業に入り込めます。また、身近な法律問題の事例を分かりやすく解説してもらえるので、知識が着実に身に付いていると実感しています。万が一トラブルが起こった際に生かせるよう、今後も積極的に授業に取り組もうと思っています。

My teaching style

野田 龍一　法学部 教授

授業におけるモットーは、「面白く」「分かりやすく」「役に立つ」「受けて良かった」と感じてもらう内容にすること。ですから、授業中は難解な専門用語はなるべく使いません。大切なのは知識を詰め込むのではなく、直面した法律問題を解決するための方法を、自らの頭で考えられるようになることです。法律は万人のために運用されるべきものであるからこそ、本授業は全ての学生が履修できる共通教育科目に設定されています。ぜひ多くの学生に、4年間の中で少しでも法律の素養を身に付けてほしいと思います。

「1パーソン、1サークル」。サークルに参加し充実した学生生活を送る。そこでは若々しい情熱が燃え、仲間たちとの固い絆が結ばれている。

情熱の証

練習は週6日。課題と目標を明確にした短時間集中型の練習で、どんなディフェンスも打ち破る突破力を鍛える。

体育部会 バスケットボール部

全日本大学ベスト8に照準を定め勝利への思いを一つに高みを目指す

福岡大学のバスケットボール部は、全日本大学選手権(インカレ)ベスト8入賞という目標を掲げ、第一記念会堂で練習を重ねる毎日。高さ3・05mのゴールを互いに狙う攻防に汗を振り絞り、勝利への集中力を研ぎ澄ましています。部員は現在、男子41人、女子29人。「9月の全九州大学リーグ戦で3位以内ならインカレへの出場権を得られますが、近年は惜敗続き。2014年は男女とも4位に終わりました」と、男子主将の児玉さん。「あと一歩で届かなかった悔しさをバネに、2015年こそ出場を果たそうと、覚悟を持って練習に臨んでいます」と語ります。練習は一日2時間の短時間集中型。「ディフェンス強化、マンツーマンの突破力錬成など、日々の練習テーマを明確にして全員で共有。練習中も『元気にやろう』『イチからやろう』と声を掛けながら盛り上げています」と児玉さんが話せば、女子主将の成林さんは「マネージャーやトレーナーなど、練習に集中できる環境をつくってくれる人たちへの感謝を忘れず、コートでは学年の違いを超えて全員で向上しようと、思いを一つにしています」と、チームワーク重視の信念を語ります。悲願達成に向けて、先輩たちの悔しい思いと期待もしっかりと受け止めて、練習コートにはいつも、皆の情熱がほとばしっています。

情熱メッセージ

主将
児玉 涼介さん(左)
(スポーツ科学部 スポーツ科学科 3年次生)
成林 礼彩さん(右)
(スポーツ科学部 健康運動科学科 3年次生)

試合では皆さんの声援が何よりの力。2014年のリーグ戦でも福大で行われた試合は男女とも無敗でした。これからも応援よろしくお願いします。

一致団結して臨んだ2014年全九州リーグ戦。

試合前は円陣を組み集中力を高める。

部員やスタッフの応援を背にコートへ。

年間行事

- 4月 ■福岡県大学リーグ戦
- 4月 ■全九州春季トーナメント
- 5月 ■西日本大学バスケットボール選手権大会
- 7月 ■九州大学体育大会(九州インカレ)
- 9月 ■全九州大学バスケットボール選手権大会
- 10月 ■福岡県総合バスケットボール選手権大会
- 11月 ■Bチーム近県大会

活動は火曜と金曜の18時10分から20時まで。テーマ別の班活動を通じて研究を深め、発表に備える。

学術文化部会 経営学研究部

60有余年にわたり継承されてきたのは思考力と渉外力、そして熱き団結力

経営学研究部は創部64年目。学術文化部会で2番目に長い歴史を持ち、伝統行事も多種多様です。「新入生歓迎キャンプや部員旅行の他、OB・OGとの交流行事が年2回。現役部員の参加は多く、結束力を感じます」と、幹事の堤さんは笑顔で話します。

日頃の活動は週2回、自分たちで決めたテーマに沿って研究を進めます。「探究しているのは身近な経営学。七隈祭でも『こんなところにも経営学』をテーマに、CD業界の今後やカフェの事業戦略など、身近な題材を経営学的視点で分析しました」と堤さん。カフェがテーマなら関連資料で調べるだけでなく、実際の店舗でメニューや接客のポイントまで観察した研究成果を展示発表しました。

年2回の日本学生経営学会全国大会も貴重な発表の場。2014年の夏季大会も2位入賞者を出しています。「発表者以外の部員もほぼ全員参加。質疑応答では1年次生部員も積極的に手を挙げてくれました。経営学研究部では、活動を通じて『考える力』と『社交性』の向上を目指しています。物おじせず挙手する姿に、成長への確かな手応えを感じました」。そして2014年12月。福岡大学で開かれた冬季全国大会を成功に導いた部員たちの姿が。「一致団結する『熱気』も、長い歴史の中で脈々と受け継いできたものの一つです」と、堤さんは胸を張りました。

情熱メッセージ

幹事
堤 彩音さん
(経済学部経済学科 3年次生)

創部64年の伝統ある部ですが、毎年新しいテーマを掲げて研究を進める部内は、常に新鮮な活気に満ちています。現在部員は64人。理系学部生も年々増えています。皆さんも気軽に部を見学してみませんか。

日本学生経営学会夏季全国大会で2位入賞。

七隈祭の模擬店。「揚げアイス」が人気。

創部64年の歴史が薫る部旗と木の銘板。

年間行事

- 4月 ■新入生勧誘週間
- 5月 ■新入生歓迎キャンプ
- 6月 ■学術文化祭
- 8月 ■日本学生経営学会夏季全国大会
- 9月 ■夏季旅行
- 10月 ■OB球技大会(OB・OGとの交流行事)
- 11月 ■七隈祭
- 12月 ■日本学生経営学会冬季全国大会(本学)
- 1月 ■福営会総会(OB・OGとの交流行事)

就活メモリー

先輩たちのあの日、あの時、そのリアルな経験を在学生の皆さんに。

SUCCESS-1

お客さまと向き合う、伝え合う、分かり合う 銀行マンに必要な力は福大で培った

株式会社 西日本シティ銀行 西新町支店
糸山 勇一郎さん
法学部法律学科 2013年卒業

一人一人に一番近い存在となり最適の銀行商品を提案していく

福岡市早良区西新の支店に勤務する糸山さん。主な担当は個人向けの貸付業務です。「住宅ローン、教育ローンなど取り扱う商品はお客さまの人生や生活設計に大きく関わるものが多く、対応には大変気を遣います」と話します。一方で、銀行業務のやりがいも感じてきました。「ローンをはじめ、銀行の商品には、枠はあってもかたちはありません。自分のやり方、作り方次第でどのようにもなります」。お客さまの数だけ事情や要望があり、その一つ一つに最適なかたち(プラン)を考えていく。商品を単なる「規定の枠」として捉えず、お客さまにぴったりと合う「器」にして提案していく。そのためには「お客さまに一番近い存在となり、誠実に対応していくだけです」と糸山さん。大切なのは、お客さまと向き合うこと。気持ちを伝え合うこと。分かり合うこと。糸山さんは、そんな力を福岡大学で培いました。

正課の学びとテニス経験を糧として就職・進路支援センターを支えに

中学生のころから硬式テニスを始め「全国トップレベルで自分を試したい」「将来の選択肢が広がる学部に進みたい」という希望をかなえるため本学の法学部へ進学。1年次の基礎ゼミで、当時大きな社会問題となった福岡での飲酒運転事故を例に「人間の暮らしを守る法律」の精神を学び、法の知識を深めました。4年間の学びは銀行業務にも生かされています。「例えば司法書士の方とも、民法の知識のおかげでスムーズに会話ができます」。

一方、庭球部では願い通り九州ナンバーワン、全国トップクラスの環境の中でもまれ、技術も精神も磨くことができました。貴重な経験になったのは、九州学生テニス連盟の仕事に携わり幹事長を務めたこと。「大会の運営から、新企画の立案・実行までさまざまな経験を重ねました」。そして3年次の冬から就職活動を開始。就職・進路支援センターに足しげく通い、企業情報、自己分析、エントリーシートや履歴書の書き方、模擬面接など節目ごとにサポートを受けました。「熱意があれば、熱意で返してくれるスタッフの方々にはとても感謝しています」。就活を続ける中で絞り込んだのは「地域社会や人々の暮らしに貢献できる」銀行。4年次の5月、第一志望だった西日本シティ銀行の内定を獲得しました。

まだ始まったばかりの銀行マン人生。しかし糸山さんは、既にしっかりと仕事に対する信条を持っています。それは、粘り強く続けていくこと。「ノニスは時間制限がありません。ぶれず、くじけず、諦めずにひたすらコートに立ち続けていれば、道は絶対に開けると信じています」。糸山さんの表情が、サーブを打つ時のプレーヤーのように厳しく、凛々しく引き締まりました。

就活アドバイス

普段の職場に直接触れて 雰囲気や自分との相性を確かめよう

銀行への就活で、最初にしたのは、キャンパス付近の銀行を全て回ることでした。客として椅子に座り、店内の雰囲気や、行員のお客さまへの応対など普段の業務を行っている様子を観察。ウェブサイトや広告では分かりにくい、銀行の「個性」が見えたような気がしました。皆さんも、可能であれば普段の業務が行われている現場に足を運んでみてください。きっと有意義な発見があります。

就活サクセスチャート

入学

1年次
父も学んだ法学部へ進学。庭球部に入部。予想した以上のレベルの高さに戸惑うも「持続力が大切」と思い直し、懸命に練習に励む。

2年次
九州学生テニス連盟の仕事を始める。交渉する相手の多くは地位のある社会人。服装や挨拶のマナーから敬語の使い方までを身に付ける。

3年次12月
就活開始。就職・進路支援センターに3日を空けず通う。スタッフの熱いサポートに支えられ自分を奮い立たせた。

4年次5月
忘れもしない5月21日。第一志望だった西日本シティ銀行から内定通知。「おめでとう」の言葉に携帯を持つ手が震えた。

4年次9月
大学生活を完全燃焼するためテニスに没頭。九州地区予選を連覇。有終の美を飾る。

SUCCESS-2

憧れの先輩を追って土木職公務員に 今、後輩たちの憧れになる技術者を目指す

福岡県 五ヶ山ダム建設事務所 工務課
福島 彩圭さん
工学部社会デザイン工学科 2012年卒業

道路や橋の建設工事の現場で貴重な経験を重ね知識を蓄える

福島さんの勤務先は、福岡県筑紫郡那珂川町の五ヶ山ダム建設事務所。主な仕事は、ダム建設に伴い水没する国道385号に代わる新しい385号を建設することです。また、道路の一部となる橋の建設工事なども担当しています。その日に作業を進める予定の箇所の図面を見て工程を確認し、注意点・留意点などを現場業務員と打ち合わせ、時には現場に赴き作業の進行を見守ります。作業終了後は書類作成等のデスクワークが待っています。2012年4月1日に福岡県の土木職公務員として入職。その翌日には現在の建設事務所へ。赴任以来、目まぐるしく事務所と現場を行き来して仕事に取り組む多忙な毎日ですが「現場にいることが大好きなので苦になりません。土木建築で大切なのは、現場での経験と知識。とても貴重な体験を重ねていると思います」と、明るく笑う福島さんです。

女性の先輩の言葉で目標を定め研究室で研究と試験勉強にいそしむ

高校時代から建設工事、特に社会基盤づくりに興味を持っていた福島さん。迷うことなく工学部社会デザイン工学科に進学しました。シビルエンジニアとして社会に貢献したいという意識を持つようになったのは1年次、仮配属になった研究室が地域行政との関わりが深かったからです。そして2年次、将来の指針となる出来事がありました。環境保護ボランティアグループ「はかたわん海援隊」で活動していた福島さん。河川清掃の日に、福岡県の土木職公務員として勤務している研究室の女性の先輩が手伝いに来てくれました。福島さんは以前から先輩の凛とした立ち居振る舞いや行動に憧れていました。久しぶりに会い「地域の暮らしを支える道路や施設を作るのはやりがいがある。ダムのようなスケールの大きな工事にも携われる」という話を聞くうちに「県庁の土木職員」という目標が心の中で芽生えたのです。

「私が所属していた研究室は、土木職公務員になった方がたくさんいました。研究室には先輩方が残した過去問やテキストがあり、研究の傍ら採用試験の勉強に励むことができる恵まれた環境でした」と振り返る福島さん。4年次6月、試験が迫るに連れ1日12時間も研究室にこもる毎日。そして9月、難関を突破。やっと先輩の背中に追いついた、という喜びが福島さんを満たしました。

「現場で培われた知識を吸収して早く一人前のシビルエンジニアに、そして先輩のような、後に続く後輩の憧れになりたい」と将来の夢を語る福島さん。こうして本学の伝統が受け継がれていきます。2014年11月に結婚した福島さんには、もう一つ夢があります。それは「この大きなダムや道はお母さんたちが作ったの」と子どもに話すことです。

就活アドバイス

大学のサポート体制を有効に利用 試験勉強は専門科目を重視して

福岡大学エクステンションセンターには、「公務員採用試験対策講座」等があり、公務員になりたいという気持ちをサポートしてくれます。ぜひ活用してください。また、専門職試験は、やはり専門科目に重点を置いた勉強を。一般教養より比率が高いですし、その過程で身に付けた知識は現場で役立つことが多いです。

就活サクセスチャート

入学

1年次12月
学科の建設デザインコースの仲間たちと授業の一環でダム見学。初めての社会デザインの現場に感動を覚える。

2年次
勉強に専念するため一人暮らしを始める。環境保護ボランティア「はかたわん海援隊」に参加。憧れの先輩に話を聞き県庁の土木職員という目標を定める。

3年次12月
ゼネコンなども視野にあったが、公務員一本に絞ることを決意。「先輩の背中を追い掛けたかったのです」。

4年次
公務員の先輩の助言や、仲間たちの励ましに支えられ、研究室での研究、試験勉強、研究の日々。

4年次9月
6月の試験、8月の面接を経て、9月インターネット上で合格を知る。喜びと、選ばれた責任の重さを感じる。

Information

就職・進路支援センターからのお知らせ

平成28年3月卒業予定者対象「学内合同企業説明会」「学内個別企業説明会」のご案内

平成28年3月卒業予定者対象の就職採用活動の開始時期が変更され、企業の広報活動が3月1日から、選考活動は8月1日からに後ろ倒しとなります。本学では、広報活動開始日の3月1日から学内において、合同企業説明会を以下のとおり開催します。学内で多くの企業情報や採用情報を入手できる絶好のチャンスです。

本学学生の採用に積極的な企業の説明会です。積極的に参加して今後の就職活動に役立ててください。

参加企業や開催日時、会場、申し込み方法等の詳細については、FUポータルや学内掲示、就職・進路支援センターのウェブサイト、Facebookに掲載していますので、確認してください。

合同企業説明会

〈開催日・参加企業数・会場〉

1. 3月1日(日) 150社(予定) 第二記念会堂
2. 4月2日(木) 150社(予定) 第二記念会堂

個別企業説明会

〈開催期間・参加企業数・会場〉

1. 3月2日(月)～4月7日(火) ※3月6日・19日・4月1日・2日は除く 1日2社(予定) 学内の教室
2. 4月8日(水)～4月下旬(予定) 1日1社(予定) 学内の教室

就職・進路支援センターでは、就職・進路に関するあらゆる相談に、専任のスタッフをはじめキャリアカウンセラーや進路相談員(就職アドバイザー)が応じています。気軽にご相談ください。

支援行事日程や詳細については、FUポータルや学内掲示、就職・進路支援センターのウェブサイト、Facebookをご確認ください。

ヒポクラテスの系譜

医師として臨床を重んじ、医師の倫理性を大切にした古代ギリシアの「医聖」。
その精神を現代に受け継ぐ、福岡大学のヒポクラテスを紹介します。

麻酔科医は手術室のガーディアン 安全を見極め、患者の命の灯を守る

福岡大学病院 麻酔科 診療部長 山浦 健 教授(医学部)

心臓外科手術の現場にて。複数のモニターが映し出すのは患者さんの現状。これらを総合的に判断しながら、今投与すべき麻酔の量や種類を判断する麻酔科チーム。

一分一秒を争いながら 手術に対し冷静に対処する

「休む暇があったら現場に出なさい」と、若手医師に指導する山浦先生。後進に規範を示すかのように、複数の手術室の様子を見ながら行ったり来たり。手術台を取り囲む外科医や手術担当のスタッフたちから少し離れたところで複数のモニターに目を配りつつ、患者さんの状態を常に見守ります。先生が専門としているのは心臓手術における麻酔で、臨床研究では「心臓超音波診断法(心エコー)を用いた心機能評価」をメインテーマとし、術前や術中の心機能評価に重点を置いています。また、「止血」についても、研究を進めています。「手術中に予期せぬ出血があった場合、私たち麻酔科医はすぐに血液を採取して解析を行い、粘度や成分から原因を究明します。その情報を執刀医に伝えて共有し、互いに協力しながら手術を進めていきます」。

手術中、患者さんの治療のためにメスを握り、攻めの姿勢で疾患に向き合うのが外科医。常に患者さんのそばに寄り添い、冷静沈着に状況を把握し、予期せぬトラブルが起きないよう、守りを固めるのが麻酔科医。どちらも欠けてはならない、チーム医療の要です。

麻酔科医はいわば患者さんの命の灯を守っているガーディアン(守護者)的存在。「患者さんにとってより安全な方を」というのが山浦先生が徹底している考え方です。決して患者さんから目を離さず、目立つことなく、安全な状態を守ります。

患者さんの目的は麻酔ではありません。手術が無事に終わり、できるだけ早く回復し、痛みや麻痺から解放された日常生活に戻ることです。そのために麻酔科医としてできることを常にチームで考えています。「手術後に痛みや合併症などの不都合を残さないために、術中の麻酔管理以上に術前の計画に力を注いでいます。患者さんの情報をできるだけ多く収集し、内科や外科と相談を重ね、さまざまなケースを想定しながら、手術前日には患者さんご本人を診察します。毎朝、麻酔科で行うカンファレンスでは複数の麻酔科医の目で正しい解答を導き出しています」。

麻酔科をリードする山浦先生が医師を目指し始めたのは福岡大学附属大濠高等学校時代。きっかけは父親の病気でした。先生が小さいころから心臓を患っていて、集中治療室に運ばれ、手術を受けたことも一度や二度ではありません。家族の病気を通して、医療を身近に感じ、中でも心臓外科や麻酔、救急医療に興味を持った山浦先生。医学部に進学する前から、麻酔科医という進路を見据えていました。大学時代は、たくさん本を読み、ひたすら勉強に励みましたが、たまには息抜きも。例えば同級生と二人、オーストラリアをオートバイで縦断したこともあります。キャンプ場を宿にしながらの貧乏旅行。途中でオートバイが壊れ、現地の人に力を借りて仲良くなったことも良い思い出だそうです。

臨床研修、研究留学、クリニック 多くの経験で医師としての幅を広げる

大学卒業後、九州大学病院に入局し、麻酔科の一員に。福岡市立こども病院や聖マリア病院への派遣を経て「一つの病院だけでなく、複数の病院や手術室、またさまざまなタイプの外科医の先生方と出会えたことが臨床医としての財産になっています」と振り返ります。

2000年からの2年間は、アメリカのウィスコンシン医科大学の心臓血管センターへ留学。低酸素時の脳血管の反応をテーマに、基礎研究に集中します。日本では臨床一色だったため、基礎研究に没頭するのはこれが初めての経験でした。日本の研究者と違い、アメリカの研究者のスタイルは非常に合理的だったと言います。「チームで研究を進める彼らは、時間の管理も上手。仕事と同じようにプライベートも楽しみ、めりはりのある生き方をしていました。それまでずっと仕事中心だった私は心に風穴を開けられたような衝撃でした」。

臨床と研究の両輪で進む大切さを知り、帰国後は、臨床研究に力を注ぎ始めます。一度、大学に戻るも、大学病院とクリニックの医療格差などの地域医療の問題に触れるため、クリニックの勤務医として働くことを決意。麻酔科単独のクリニックという全国的にも珍しい形態の病院に勤め、福岡市内の提携病院の手術室を巡りながら、麻酔を施す日々が続きました。「患者さんにより近い場所で医療に携わることができてやりがいを感じる一方、土日に休まず動いても、自分一人では年間500~600症例にしか関われないことを痛感しました。もっと多くの患者さんを救うためには、麻酔科医全体の底上げに寄与しなくては」と思い、2008年に再び大学へ戻ることを決意。そして、2014年春に、教育機関でもある福岡大学病院へ赴任しました。

山浦先生に最後に尋ねたのは、ヒポクラテスの卵たちに伝えたいこと。「臨床と研究、どちらも力を注ぎ、できれば留学もして、さまざまな世界に身を置いてほしい。そこで培った経験を糧に患者さんを守り、後進を育ててください」。背中を押す力強い言葉が返ってきました。

1

2

3

1「患者さんの手術後も、自分の目で経過を観察しないと成長は難しい」と訴える 2 先生の臨床研究のテーマでもある「止血」は手術室でのデータ収集から始まる 3 留学中に研究室の仲間たちと1枚

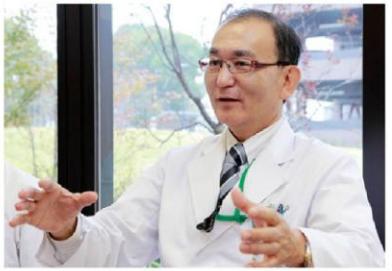
福岡大学の

医療展開ニュース

150平方メートルの広々とした空間を持つリハビリテーションセンター。陽光をふんだんに取り込む大きな窓は二重構造で、室内環境は年間を通じて快適。日本家屋の縁側に見立てた木の回廊が、院内と外の世界を温かくつないでいる。

急性期リハビリテーションの拠点として先進医療を支え地域医療の発展・拡充を担う

福岡大学筑紫病院リハビリテーション部
診療部長（副病院長、整形外科部長）
柴田 陽三 教授



患者本位のチーム体制で転院や社会復帰を支援

福岡大学筑紫病院1階のリハビリテーションセンターは2013年5月、新病院の竣工と同時に開設。以来、脳卒中、循環器、運動器、呼吸器など、筑紫病院の全診療科に対応する幅広いリハビリテーションの拠点となっています。

筑紫病院リハビリテーション部診療部長と整形外科部長を兼務する柴田先生は「本病院は国の地域医療支援病院の指定を受けた基幹病院。本センターは急性期リハビリ、すなわち当院での入院治療と社会復帰、あるいはリハビリ施設への転院の橋渡しを行う拠点です」と同部の役割を説明し、こう付け加えます。「病院内でのリハビリ拠点を、広い窓を通して中庭の芝生や桜が見える1階に設置したのは、患者さんに外界との接点を提供し、社会復帰への希望と意欲を高めてほしいという願いからです」。同部には現在、柴田先生を含めて医師2人、理学療法士（PT）や作業療法士（OT）、言語療法士（ST）といったリハビリの専門技師9人が在籍し、各診療科の医師や看護師、栄養士等と連携しながら、きめ細かなチーム医療を展開しています。

「例えば、心筋梗塞の初期治療を終えた方が運動処方でエルゴメーターを使うときは、PT主導で循環器内科の医師や看護師が寄り添い、脈拍数や心電図波形の変化が想定通りかなど、入念に管理しながら進めていきます。また、PTは脳神経外科や整形外科のカンファレンスにも参加し、手術日からリハビリの開始日まで、治療計画の流れを早い段階で把握。患者さんに応じた適切なリハビリプランにつなげています」と、柴田先生は患者本位に徹したリハビリ体制の充実ぶりを語ります。

「クリニカルパス」を共同化しより安心できる地域医療体制へ

柴田先生が「高次医療や先進医療の追求は大学病院の責務」と話すとおり、筑紫病院では多彩な先進医療に挑んでいます。中でも脳神経外科の血管内手術、整形外科における人工関節置換手術の執刀実績は西日本屈指。柴田先生自身、肩関節置換手術の第一人者なのです。

「リハビリの質は人材、つまり患者さんと直接向き合う技師の質に比例します。歩行器具や運動負荷装置といったハード面の充実以上に、技師の意欲や知識をいかに高めるかが重要です。治療とリハビリは密接に連動しており、先進医療の取り組み事例が増えるほどリハビリのノウハウも深まります。加えてリハビリテーション部ではPTが先進医療の手術に立ち会う機会を設けるなど、技師の経験値向上にも力を注いでいます」と柴田先生。技師の成長意欲も旺盛で、リハビリを通じて得た研究成果を整形外科スポーツ学会や日本肩関節学会で発表するPTもいます。

また筑紫病院におけるリハビリ医療の充実は、地域医療との連携にも大きな役割を果たしています。「リハビリテーションセンター開設直後には、診療計画を時系列で記したクリニカルパスを筑紫医療圏にある3つの地域医療支援病院で共同化する試みをスタート。A病院からB医院へ、さらにCクリニックへ転院するようなケースでも、同じパスに基づいた治療が受けられますから、患者さんにとっては何よりの安心材料です。本センターの充実が共同化の実現を強く後押しした面も大きいです」と、柴田先生は地域医療連携の成果にも確かな手応えを感じています。

最後に今後の方向性を聞くと「私たちは全国の医師や技師たちと切磋琢磨し、最新の知見を積極的に吸収しています。地域はもちろん、日本のリハビリ技術の向上をリードする、そのような意気込みで日々努力を重ねています」と、力強く展望を語ってくれました。

TOPICS...

整形外科をはじめ多彩な領域で先進のリハビリ医療を磨く

リハビリテーション部では、病院全体の先進医療への取り組みと連動して、新たな分野のリハビリ技術・ノウハウの確立にも注力しています。2014年4月、日本でも保険適用が始まった「リバース型人工肩関節全置換手術」と連動するリハビリ技術もその一例です。西日本屈指の執刀実績を持つ柴田先生の指導を受けたPTやOTは、重篤な肩関節変形症に長年苦しめられた患者さん一人一人に、高度なリハビリ技術で向き合っています。

深層筋を失った重篤な患者に効果が期待できる「リバース型人工肩関節全置換手術」連動型リハビリ。

リハビリテーション部には医師2人（整形外科医を併任）、理学療法士（PT）6人、作業療法士（OT）2人、言語療法士（ST）1人が在籍。近く増員も予定されている。

全診療科と情報交換を密に行い、患者一人一人に適宜なリハビリプランを遂行。

適切な運動負荷で体力回復を図る自転車エルゴメーター。

暮らすめいと

今回のテーマ

共感力、質問力、感謝力を磨き、豊かなコミュニケーションを。

共に語らい、心を開き、互いを認め合う。コミュニケーション能力は、人が豊かに楽しく生きるために欠かせない力です。今回はSNSからグループディスカッションまで、コミュニケーション能力を高める秘訣を紹介します。

SNSでも向かい合う会話でも大切なのはキャッチボール

FacebookやLINEといったSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)は、現代社会に欠かせないコミュニケーションツール。SNSを介した情報共有や意見交換の総量は、以前とは比較にならないほど増えています。

とはいえ、SNSの普及が必ずしも私たちのコミュニケーション能力向上につながっているとはいえないのが実情です。いくらでも発言可能なSNSでは、ともすれば自己中心的な情報発信に陥りがち。「聞いてほしい」「見てほしい」という自己承認欲求を押し付けるだけでは、会話の深まりは期待できません。これはリアルな対話でも同じことです。

コミュニケーションの基本は、面と向かって1対1で話すこと。話のキャッチボールを無理なく進めるにはコツがあります。まず話を始める前に、一つでも「今日はこの話をしよう」という話題を準備。これだけで対話の第一球はクリアです。また話を聞く際には相手の目を見て相づちを打ち「ちゃんと聞いていますよ」と共感のサインを送ると、対話にリズムが生まれることは心理学の実験で実証されています。さらに、質問ポイントを探しながら話を聞く姿勢も重要。しっかり伝えて、聞いて、質問をぶつけて新たな話題につなげる。この流れをイメージしながら対話すれば、無理なく話が弾むことでしょう。

グループでは全員の思いを引き出して議論の成果を挙げる

ゼミの討議やアイディアを出し合う場など、グループコミュニケーション特有の難しさにも対処法があります。左ページの図を見てください。図は参加者3人の共有情報A、各自の独自情報B〜G、計7つの情報が存在する状況を示しています。この場合、漫然とディスカッションを進めると、往々にして共有情報の枠から一歩も出ず、残りの6つの情報を生かせないことが多いのです。これはSNSで、周囲の予期せぬ反応を警戒するあまり、当たり障りのない発言に終始しがちな心理にも通じます。

こうした場合、議事のまとめ役であるファシリテーターが「他に議題や意見はありませんか」と、独自情報を引き出す配慮を示すことで、議論の幅が広がります。時には情報BとFを掛け合わせたHという新たな発想が生まれる、そんな予期せぬ化学反応も起こり得ます。「三人寄れば文殊の知恵」という諺(ことわざ)がありますが、一人では予想もしなかった成果が十分に期待できるところに、グループコミュニケーションの意義と可能性があります。

感謝を忘れぬ「他者視点」に徹しコミュニケーションをより深く

コミュニケーションには心の健康状態も密接に関係しています。アメリカの著名な心理学者が行った大変興味深い心理実験を紹介しましょう。学生を2グループに分け、一方には日々の中で感謝したことを、もう一方にはいらいらしたことを書かせる。これを一定期間継続すると、前者は至ってハッピーに、後者は抑うつ的な心理傾向がはっきり表れた、というのです。

例えば、小さな子どもが毎日食事を作ってくれる母親に特に感謝の念を抱かないのは、それが当然のことだと思っているからです。そうしたことを日々の生活の中で事細かく検証すれば、感謝の対象は無限に存在していることに気付きます。そして感謝の念を心掛けるうちに、相手を思いやる「他者視点」が生まれ「相手が今求めていることは何だろう」「何が相手に役立つだろうか」といった配慮が自然とできるようになります。

こうなれば、SNSでも対話でも会議においても、コミュニケーションはぐっと深まります。ぜひ皆さんも、聞く力と話す力を他者視点で磨いて、豊かなコミュニケーションを楽しんでください。

●グループコミュニケーションにおける情報の共有・拡張の流れ

●チーム全体を情報(知識)のプールと捉える。

●普通に議論を進めると、チームはお互いに共有している情報Aのみを話題にしがち。

情報Aだけでなく、B〜Gの情報を活用すれば、議論の幅が広がり、新たにHという情報も得るなどコミュニケーションの効果も深まる。

情報共有・拡張するためのポイント

- 話す前に、自分の中で考えを整理する。
- 「相手の話を否定しない」というルールを決める。
- 相手の話に常に一つ疑問を持つ習慣を付ける。
- 相手の話には相づちを打ち、共感のサインを送る。

[監修] 人文学部文化学科 **池田 浩** 准教授

専門は、集団心理学と産業組織心理学。集団における人間の心理や行動について、チームワークやリーダーシップなどの観点から幅広く研究しています。近年では特に、やみくもに統率するのではなく、目標達成に向けた環境整備やサポートに力を尽くす「サーバント・リーダーシップ」の研究に注力。このテーマに関連し、さまざまな企業の協力を得て、集団心理が人事評価やモチベーションにもたらす影響についても調査を進めています。2010年からは、専門文献を読み込む読書会を主宰。本学で開催した読書会にも全国から気鋭の研究者が集結し、熱い討議を展開しました。

来てみて 話して こころの整理

ヒューマンディベロップメントセンターのご案内 (HDセンター:学生相談室)

ヒューマンディベロップメントセンターでは、春季休暇中も、カウンセラーが皆さんからの相談を受け付けています。春休みの過ごし方を考えたい、卒業を前に気持ちの整理をしたい…など、どんな相談でも結構です。一人で悩まずに、一度来てみませんか?

相談内容の秘密は守りますので、安心して相談してください。

相談、グループ・セミナーは無料、相談は予約制です。

相談時間 月・水・木・金/9:30〜16:00 火/9:30〜18:40

場所 学生部事務室棟3階(1階に学生生課のある建物)

○本学学生のことであれば、ご家族・教職員の皆さまからのご相談もお受けしています。
○休憩できる「フリースペース」もあります。

春季セミナーのお知らせ

春休み期間中、以下のセミナーを実施しています。どの学年の方でも参加できますので、関心のある方は、気軽に問い合わせてください(参加費は無料です)。

■社会で役立つ対人関係スキルセミナー
- 3月 9日(月) 12:40〜16:00 対人関係編
- 3月12日(木) 12:40〜16:00 社会活動編
- 講師:人文学部教授 皿田洋子 ●担当カウンセラー:屋宮公子

■なりたい自分探しセミナー
- 3月16日(月) 12:40〜16:00 自己理解編
- 3月23日(月) 12:40〜16:00 職業探索編
- 協力:就職・進路支援センター ●担当カウンセラー:屋宮公子

■自分らしい表現講座
- 3月19日(木) 12:40〜16:00 考え方編
- 3月26日(木) 12:40〜16:00 練習編 ●担当カウンセラー:屋宮公子

※初めて参加する人は、事前に問い合わせください。

予約・お問い合わせ 092-871-6631(代)(内線2630) ※お電話は平日の16:30までにお願いします。
●HDセンターのウェブサイトもご覧ください http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu816/home1/hd1.htm

Global F（グローバル・エフ）

福岡大学のグローバル化への取り組みを紹介します。

福岡大学は、グローバル化への取り組みを積極的に推し進めています。今回は、交換留学生としてベルギーから来日し、福岡大学で学んでいるアンクレア・リエジョアさんと、授業を英語で進める上での教授法を学ぶため「海外短期教育研修」に参加した長江先生にインタビューしました。海外からの視点を踏まえた体験談には、グローバル人材になるためのポイントが凝縮されています。

多国語の習得と他国の文化を学ぶため 2度目の日本留学に挑戦

2014年9月から5カ月間、交換留学生として福岡大学で学んでいるアンクレアさん。出身のベルギーでは、母国語以外の言語を使い社会で活躍するためのマルチリンガル・コミュニケーションを専攻し、母国語であるフランス語と隣国のドイツ語を学んでいます。それに加え、さらに日本語も習得するため、今回日本へ留学することを決意したそうです。

アンクレアさんが、日本を訪れるのは、高校生だった2009年以来2度目です。当時は、山梨県でホームステイを体験。「最初の半年は日本語が話せず、ホームシックに。しかし、帰国する頃には、日本の文化や温かい人たちが大好きになっていた」と振り返ります。この時の経験があったため、次の留学先も日本に決め、協定校である福岡大学を留学先に選び、日本に来るのを心待ちにしていたそうです。

仲間と「放生会」を訪れ、楽しみながら日本文化に触れた。

毎日が学びの機会と自覚し課題や授業に積極的に挑んでいく

5年ぶりの今回は、国際交流会館国際交流棟を住まいにしています。正課の授業だけでなく、フランス語の授業のアシスタントを務め、週に1度、フランス語サークルにも出席するなど、課外活動にも積極的。福岡大学の印象を尋ねると、「学生たちは、とても真面目。ただ母国の学生に比べて、授業に向かう姿勢が受け身でもったいない」と指摘します。「先生も熱心な方ばかり。学生は予習し、授業をよく聞き、課題をやれば着実に成長できるはず。一日一日が貴重な学びの機会」と語ります。自身も「週末まで課題や予習に追われ、観光を楽しむ時間は多くありませんが、新しい知識を習得する喜びに満ちた毎日」だそう。

留学の意義は、「他の国の言葉や文化を知ることで、その国の魅力が分かり、母国についても新たな視点で見ることができるようになり、視野も広がります。それには旅行ではなく、ある程度長い期間暮らす留学が最適」と語るアンクレアさん。帰国後はドイツでのインターンシップを経て、卒業予定。将来は、語学力を生かし、イベントの企画や運営の仕事に就くことを夢見ながら日々努力を続けています。

フランス語サークルの様子。「日本語で声を掛けられるとうれしい」とアンクレアさん。

交換留学生
ルーヴァン・カトリック大学（ベルギー）
アンクレア・リエジョアさん

海外レポート　渡航地：アメリカ（ネブラスカ大学オマハ校）

観察・対話を大切にして 互いの違いを受け止める

人文学部教育・臨床心理学科
長江 信和 准教授

アメリカの教育現場で英語での教授法を学ぶ

担当するゼミでは、英語のみの授業を行うこともある長江先生。「日本では、英語で発言することを恥ずかしがる学生も多く、日本語での発言に比べるとディスカッションが深まりづらい」ことが課題だったそうです。どう進めれば効果的か悩んでいた時期に、国際センターが企画する「海外短期教育研修」の話を聞き、すぐに参加を表明しました。

出国前に福岡大学で「英語で効果的に教える方法」という2日間のワークショップに参加し、アメリカのネブラスカ大学では7泊9日の研修を受講。研修は、英語で行う教授法のワークショップ、大学・大学院の授業聴講、現地の大学教員との交流など充実した内容で、最終日は研修の集大成として英語で模擬授業を行いました。「勉強漬けで、久しぶりに学生気分を味わいました。予習復習に追われましたが、心理学的にもうなずける教授法に出合え、満足度の高い日々でした」。ネブラスカ大学は、福岡大学より学生数は少ないものの、約14,000人の学生が在籍する総合大学。文・理・医の各学部がそろい、キャンパス内に病院やレストラン、映画館などを備える一つの街でした。先生はこの環境を「全体がとてもアカデミックな雰囲気。学びの場も息抜きをする場所も同じ場所にあるので、おのずとキャンパスに滞在する時間が長くなり、勉強量も増える。図書館も7時から24時まで使えます」と高く評価しました。

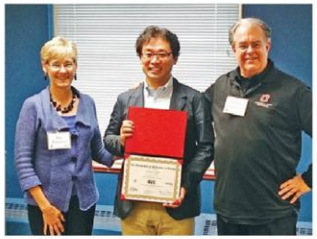
人の背景にあるダイバーシティを意識して

教授法のキーワードは「ダイバーシティ（多様性）」。アメリカでは、人種も年齢も職業も違う学生が机を並べるため、教員はそれぞれの多様性を考慮しながら授業を進めることになります。学生をよく観察し、授業外の時間も含めて対話することが大切だと先生は言います。「アメリカの教員は授業中、教室内をよく移動します。学生の様子を見て、言葉を掛けながら、それぞれの学生に適した教え方を工夫していました。もちろん成績評価は厳しいものですが、多様性に応じた指導を行うことは、授業で使う言語が何であろうと重要だと感じました」。

最終日、現地の学生向けに英語で模擬授業。

新しい環境で経験値と知識の引き出しを増やして

今回の海外研修を通して、今、福岡大学の学生に伝えたいメッセージがあると先生は言います。「今後、日本でも外国人労働者の受け入れが進み、多様性にどう向き合うかということが社会問題となるでしょう。自分と違う属性や価値観を受け入れることは難しいかもしれませんが、受け止めることは可能です。総合大学の利点を生かして、クラスメートはもちろん、他学部の学生や留学生、教員や職員とも接点を持ち、積極的に交流する日々を過ごしてください」。さらに、在学生の将来のためにアドバイスをくれました。「社会に出ると、グローバルな課題に対して自分なりの解答を持たなくてはなりません。『自分には関係ない』と他人やニュースから目を背けるのではなく、興味の範囲や知識の引き出しを増やしておきましょう。そのための一つの方法として、留学や海外旅行は良いきっかけになると思います」。


全てのプログラムを終え、修了証書を手に。

多様性を受け止めるために大切な3つの心構え

- そもそも人間が多様な存在であることを認める
- 相手をよく見て言葉を交わし、関心を示す
- 相手を受け入れる（同一化）よりも、受け止めることを重視する（自他の尊重）

2014年度 第10回 学生チャレンジプロジェクト

福大生が共に考え、共に力を合わせて企画したアイデアの実現を、福岡大学がサポートする「学生チャレンジプロジェクト」。10回目を迎える今年度に採択された3件の内容とメンバーのプロジェクトに向けた熱い思いをレポートしました。

Project report 1　福岡でレインボーパレードするっ隊！

プロジェクトメンバー
左から赤木響亮さん、金清文香さん、池袋真さん、新屋敷月さん。そのほか30人が参加

性と生の多様性の周知を促すレインボーパレードを福岡で

代表者：赤木 響亮さん
（人文学部教育・臨床心理学科 4年次生）

■計画概要
セクシュアルマイノリティ（性的少数派）の周知を図る「福岡レインボーパレード2014」を開催し、広く一般に「性と生の多様性」について考えるきっかけを提供。

代表の赤木さんは2014年4月、東京で開かれたレインボーパレードに初めて参加しました。「レインボーパレードとはLGBT、つまりレズビアンやゲイ、トランスジェンダー（性別越境者）といったセクシュアルマイノリティ（性的少数派）の存在をパレードという形で社会に周知するイベントです。当日は当事者もそうでない人も、参加者が思い思いの格好で街を歩き、沿道の声援に応えたり、とても自由で開放的な雰囲気。パレードが行われている間、私の周囲でも性と生の多様性に関する会話がごく自然に交わされていて、ありのままの自分でいいのだと、勇気付けられました」。

自身もトランスジェンダーであり、以前から「福岡でもレインボーパレードを実現したい」と考えていた赤木さんは、東京での体験で確信を強め、学内の仲間を募って「福岡でレインボーパレードするっ隊！」プロジェクトを開始しました。

準備を進める過程では、協力依頼で企業や店舗を訪れた際など、容易に主旨を理解してもらえない場面もありましたが「関わった人の多くから『楽しみにしているよ』と。励みになりました」と、メンバーは笑顔で振り返ります。また、2014年9月に学内でのLGBTセミナーで講師役を務めた池袋さんは「セミナーを機に、幾つかの高校に出向いて多様な性について講演を実施。今後も広がりそうです」と手応えを明かします。こうして2014年11月16日、福岡で初めて開かれたレインボーパレードは約1,000人の参加者を集め、大成功。赤木さんは大きな一歩に達成感を感じつつ「一度の祭りに終わらせず、今後も2度目3度目のパレードを実現し、考える機会を広げてほしい。できれば福大生の手で」と、後輩に願いを託しました。

学内で行われたLGBTセミナーでは池袋さんが「多様な性」について講演。

多様性の象徴である虹をモチーフとするレインボーパレード。

Project report 2　1／10スケール Air Engine Eco Car 製作

プロジェクトメンバー
左から馬場将史さん、田中瑛一郎さん、徳冨晃啓さん、保利俊博さん

環境に配慮した圧縮空気のエンジンで走るラジコンカーを

代表者：田中 瑛一郎さん
（工学部機械工学科 3年次生）

■計画概要
エアエンジン搭載のラジコンカーを製作。市販品と性能を比較してデータを収集し、メカニズムを解析する。さらに、七隈祭やサークルのブログ、動画サイトなどでエアエンジンの魅力を発信。

代表の田中さんは、機械工学の知識を生かしてものづくりに励むサークル「F・me」に所属しています。その活動の一環として出場したのが、各出場者が製作した模型ロケットを打ち上げ、主に滞空時間の長さや発射地点と着陸地点の近さなどを競い合う「種子島ロケットコンテスト」。2014年度、田中さんはロケットの先端部や胴体、翼といった主要パーツをカスタムできる構造が評価され、プロダクト賞を獲得。この受賞で、ますますものづくり精神に火が付き、新しい発想で企画したのがエアエンジン（圧縮空気エンジン）で走るラジコンカーでした。

エアエンジンの設計は、「もともと車に興味があり、子どものころから図鑑などを見て、遊び感覚でエンジンの構造を学んでいた」という田中さんが担当。仕上がった図面に沿って、3人のメンバーで円柱や立方体のアルミ材を学内の工作機械で削って部品を製作し、制御担当の馬場さんがラジコンを始動させる基盤を製作するという役割分担で作業を進めました。しかし、完成させてはエア漏れが生じ、部品の精度に問題があることが発覚するなど、エアエンジンの製作は困難を極めることに。それでも諦めることなく、設計の再考や作業のやり直しを繰り返しながら完成を目指しました。「エアエンジンの実現は苦難の連続ですが己の力を試す絶好の機会」と異口同音に本プロジェクトに取り組む意欲を語ります。

「エアエンジンで走るラジコンカーは世界でもあまり例がないようです。ですから、この挑戦が環境に配慮した自動車の、一つのケースの先駆けとなればと思っています。また、私たちの挑戦が成功することで、福大生の高い発想力と技術力を証明することができれば、とてもうれしいですね」。田中さんの言葉にメンバー全員が自を輝かせていました。

エアエンジンの動作確認。予測通りに動くと皆で喜び合う。

アイデアスケッチや図面、歴代のエアエンジンなど。試行錯誤を重ねた様子がうかがえる。

Project report 3　モバイル・ラーニングサイト「TOEFL Bridge」-英語教材開発-

プロジェクトメンバー
左から中尾健人さん、酒見美也子さん、於保蒼也さん、星木勇作さん、野上拳太郎さん、中尾里奈さん。そのほか4人が参加

海外留学を目指す学生たちの輝く未来をつなぐ架け橋に

代表者：中尾 健人さん
（理学部地球圏科学科 4年次生）

■計画概要
海外の大学への進学を目指す際などに必要な「TOEFL®」の学習支援を目的としたスマートフォン用のサイト開発。2013年度に引き続き、2014年度は練習問題やシステムの充実を図る。

※2013年度の活動は、学園通信No.44 16ページにて紹介。「福岡大学学園通信No.44 モバイル・ラーニング」で検索 ⟶
www.fukuoka-u.ac.jp/about-us/magazine/h25/44/index.html#page=17

「学習コンテンツとしての効果性を高め、実用化を目指したい」と2013年度に引き続き、本プロジェクトへの応募を決めたメンバーたち。今年はまず、練習問題の質と量の向上に努めました。そこで新たに2人の査読員を迎え、計4人の監修体制でクオリティーを徹底追求。「作成した問題の内容がTOEFL®の水準に達しているか、英文や日本語の解説文が適切に表現されているかなど、厳密にチェックしてもらい、改善を重ねながら完成度を高めました」と中尾さんは振り返ります。さらに、新メンバーの専門性を生かして薬学や商学の分野を取り入れたほか、2013年度から協力を得ている科学雑誌「ニュートン」に問題文のベースとして、天文学や生物科学をはじめ、多様な分野の英文を提供してもらうなど、出題領域の拡大にも力を尽くしました。

サイトのシステム面では、「マイ単語帳」機能を追加。プログラム担当の野上さんは、「反復学習ができるよう文中の難解な英単語を保存し、和訳付きで見返せる機能を考えました」と説明します。続けてデザインの改善点を話してくれたのは星木さん。「楽しく学習できるよう企画したアバター機能の充実を図り、正解数に応じて獲得できる服や髪型などの着せ替えパーツを増やしました。より使いやすく、各ページのリデザインも継続的に行う予定です」。

最後に約2年間の活動で得た自らの成長について尋ねました。「総合的に英語力が上達したのはもちろん、学外や自上の方とのやり取りを通して対話力を鍛えることができました」と答えたのは中尾さんをはじめとする4年次生メンバー。「海外留学を目指す福大生の未来を開くコンテンツとなるよう育ててほしい」と、活動を受け継いでサークル化を目指すという後輩たちにエールを送りました。

パソコンの画面上でサイトの使い勝手やデザインを確認し、改善点を話し合う。

服、靴や髪型など、自由にパーツを組み合わせて自分好みのアバターに育てていく。

国際試合や全国レベルの大会で活躍した学生（個人・団体）を表彰

平成26年9月29日（月）、60周年記念館ヘリオスホールで、平成26年度上期の課外教育活動成績優秀者の表彰式を行いました。

課外教育活動において優秀な成績を収めた9人および1団体に対し、衛藤卓也学長から表彰状が贈られました。

体操競技部の鈴田佳祐選手（スポーツ科学部3年次生）は跳馬で最高難度の大技「リ・セグァン」を決める日本で唯一の選手です。2020年東京オリンピックでの活躍も期待される注目選手です。過去オリンピックに出場した9人の先輩方に続くよう、今後の活躍が期待されます。

団体（全日本選手権優秀成績）

学友会名	大会名および種目	結 果
なぎなた同好会	第53回全日本学生なぎなた選手権大会　団体の部	第3位

個人（全国大会3位以上）

学友会名	氏名（学部および年次）	大会名および種目	結 果
陸上競技部	杉山 真奈穂さん（スポーツ科学部4年次生）	天皇賜盃第83回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子400mハードル	第3位
	苅田 萌さん（スポーツ科学部4年次生）	2014 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子走高跳び	第2位
	太田 亜矢さん（スポーツ科学部1年次生）	2014 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子砲丸投げ	第3位
モーターボート・水上スキー部	田中 大地さん（商学部3年次生）	第59回 桂宮杯 全日本学生水上スキー選手権大会 男子個人スラローム部門	第3位
体操競技部	鈴田 佳祐さん（スポーツ科学部3年次生）	第68回全日本学生体操競技選手権大会 男子種目別：跳馬	優勝
レスリング部	菅原 翔太さん（スポーツ科学部2年次生）	文部科学大臣杯2014年度全日本学生レスリング選手権大会 男子グレコローマンスタイル71kg級	第3位
	花山 尚生さん（スポーツ科学部2年次生）	文部科学大臣杯2014年度全日本学生レスリング選手権大会 男子グレコローマンスタイル75kg級	第2位
		2014年度JOCジュニアオリンピックカップ 男子グレコローマンスタイル74kg級	第2位
なぎなた同好会	大岡 光さん（スポーツ科学部2年次生）	第53回全日本学生なぎなた選手権大会 演技競技（大岡・田中組）	優勝
	田中 利江さん（スポーツ科学部4年次生）	第53回全日本学生なぎなた選手権大会 演技競技（大岡・田中組）	優勝（3年連続）
		第53回全日本学生なぎなた選手権大会 個人の部	第3位

個人（国際試合等対象選手一覧）

学友会名	氏名（学部および年次）	大会名および種目	結 果
陸上競技部	太田 亜矢さん（スポーツ科学部1年次生）	第16回アジアジュニア陸上競技選手権大会 女子砲丸投げ	第5位
レスリング部	花山 尚生さん（スポーツ科学部2年次生）	2014年アジア・ジュニアレスリング選手権大会 グレコローマンスタイル74kg級	第4位

商学部第二部が「社会人コース」履修生を募集

商学部第二部商学科では、会社員、中間管理職、経営者、公務員、熟年層、リカレント教育希望者等の社会人を対象に、1年間の履修期間で、金融・流通、経営、会計、国際ビジネスの4つの分野を体系的かつ横断的に学べる「社会人コース」を開設しています。コース修了者には、学校教育法第105条に基づく履修証明書（社会人コース修了証）を授与します。1年間で修了できない場合には、1年間の延長も可能です（追加受講料は不要）。平成27年度履修生募集の詳細については、商学部事務室にお問い合わせください。

福岡大学法科大学院で学び 司法試験の難関を突破 法曹の道を力強く歩む二人の轍は 続く後輩たちの良き導きとなる

膨大な量の資料や判例を読み込み、仲間と切磋琢磨した。模擬法廷では具体的な判例を扱いながら、互いに活発な意見を交わし、表現力の幅を広げた（写真左から、柴尾さん、前田さん）。

柴尾 知宏さん
福岡大学法学部 2008年卒業
福岡大学法科大学院 2008年入学
第5期生

前田 恭輔さん
青山学院大学法学部 2009年卒業
福岡大学法科大学院 2010年入学
第7期生

法律の持つ多様性に魅力を感じて法曹の世界へ

司法試験は、裁判官・検察官あるいは弁護士を目指す場合に避けて通れない国家試験です。2014年は福岡大学法科大学院の修了生2人がこの難関を突破しました。

福岡大学出身の柴尾さんが法律に関心を持ったのは、高校生の時でした。インターネットオークションの取引に関わった際、売った商品の代金が支払われず、法学部に通っていた先輩に相談すると、債務不履行に当たると助言をくれたそうです。その助言に基づき相手方を説得したところ、代金は支払われました。そのときに法律の力を実感し、法曹に関心を持つようになったのです。一方、前田さんは、法学部で履修した、刑事事件の原因や再犯率について考える「責任論」という授業がきっかけでした。「悪いのは行為か、人格か、環境か」ということを考える内容で、それまでは知識の一つと考えていた「法律」の意義を、深く広く考えるようになったと言います。

前田さんが司法試験当日も使った万年筆。大切な人からの思い出の品が合格へと導いてくれた。

強い支えは司法試験で問われる思考力をみっちり鍛えてくれる先生方と勉強に集中できる恵まれた環境

柴尾さんが福岡大学法科大学院を選んだ理由は、大学在学時に初挑戦した司法試験で学部の先生が親身になって指導してくれたから。その熱意に感激し、大学院でも同じような指導を受けられるのではという期待があったそうです。前田さんは地元の九州に戻ることを前提に、司法試験合格率が九州でも屈指の高さである本法科大学院を選びました。

柴尾さんは法科大学院の授業は期待以上であり、特に思考力を鍛えることができたと言います。「司法試験は単なる暗記ではなく思考力が問われます。授業を通して、自分が行う法解釈とは違う解釈に触れたことも有意義でした」。前田さんもうなずきながら「予習は授業時間の数倍の時間を費やしましたが、それでも見えなかった視点や意見が授業で得られ、毎回新鮮な驚きでした。充実した授業の後に必ず復習をすることで、学びを深く浸透させることもできました」と付け加えます。

柴尾さんの尊敬する師である小野寺教授の判例フォーマット。珍しい縦書きにもすっかりなじんだ。

福岡大学の法科大学院ならではの特長を、前田さんは「先生との距離の近さ」だと言います。授業時間外に疑問を抱いたときは、1フロア上にいる先生方にすぐに聞きに行け、しばしば助けられたそうです。柴尾さんは、図書館と勉強スペースが一つになった自習室で、気になったことをすぐに調べられて良かったと振り返ります。これから司法試験を目指す後輩たちに対して、柴尾さんは「勉強が大変と思わずに、新しい視点が入ってくることを楽しんで」とアドバイス。前田さんは「3年間、まっとうな努力をすれば通らない試験ではありません。勉強や努力の量に結果が付いてくると信じて、自分の人生を切り開いてください」と添えました。

現在はまだ司法修習生。夢の入り口に立ったばかりの2人ですが、将来の理想像をしっかりと見据えています。前田さんは「法律で人を温かく包み込んで守れるような弁護士になりたい」。柴尾さんは「どのようなポジションであれ、歴史に残るような最高裁の判例に関わりたい」と、共に抱負を熱く語ってくれました。二人が歩み、そしてこれから歩む道。その道には、後輩たちの良き導きとなる轍が、くっきりと残っていることでしょう。

福岡大学法科大学院の魅力

柴尾さん
「少人数制なので、疑問点を納得いくまで聞けるし、先生やスタッフが親切」

前田さん
「学内の『リーガルクリニック法律事務所』に第一線で働く先輩がいるので、生の声を聞くことができる」

NANAKUMA Communication
ななくま通信

「人生を楽しくする方程式」と題し、ピーター・フランクル氏の講演会を開催

カラフルなスティックやボールを使ったジャグリングの妙技も披露

福大生ステップアッププログラム（FSP）の一環として、第14回「今を生きる教養講演会」を平成26年10月17日（金）、831教室において開催しました。講師は、数学者であり、大道芸のジャグリングの名手としても知られるピーター・フランクル氏。「人生を楽しくする方程式」を演題に、講演を行いました。

本学畠田副学長の開会のあいさつに続き、フランクル氏がジャグリングをしながら登場。満座の客席から大きな拍手が起こり、会場は早くも熱気に包まれました。演台に立つと、フランクル氏は大道芸人から“数学教師”に早変わり。ホワイトボードに書き出された数字の列を題材に、数問の計算問題を出題しました。

頭のウオーミングアップの後は、いよいよ講演の本題に。「終身雇用が当たり前だった昭和の高度成長期には、分野を問わず活躍できるゼネラリストが求められましたが、実力主義のこれからの時代を生きる皆さんには、ぜひ専門家『エキスパート』を目指してほしい」と語り、専門家になるために「時間に“ケチ”になれ」と、ホワイトボードに大書しながら説きました。

「若い皆さんにとって時間は最大の資源。勉強時間が1時間多いか少ないかで、一日ではそれほど差がつきませんが、4年間では大きな違いです。勉学はもちろん、趣味、友人との交流など、目的意識を持って時間を最大限有効に活用するよう、心掛けてください」。次第に口調にも熱がこもってきました。

続いてホワイトボードに躍ったのは「人生では自分が主人公」という印象的なフレーズ。フランクル氏はその意味を「他人は自分の人生の主人公ではないということ」と数学の対偶理論を用いて説明し「スポーツ選手や芸能人の動向は、自分の人生には何の影響もありません。何となくテレビを見て時間を過ごすくらいなら、離れて住む親族に電話をしたり、授業の復習をしたりする方がいい。家族、友人、先生など会って話せる人との関係を深める努力が、人生を有意義にしてくれるのです」と、主人公という自覚を持った生き方を話しました。

最後にホワイトボードに記されたのは「結果」「過程」という二つの言葉でした。「人生においては結果より学ぶ過程が大切。『好きこそ物の上手なれ』というように、学びたい分野と自分に合った学び方が見つかれば、学習そのものが楽しくなります。そうすれば、おのずと結果もついてくる。一挙両得です」と、12カ国語を自在に操る言語の達人らしく、ことわざや四字熟語を駆使して説きました。

最後は再び、3本の棒と3個の玉を用いたジャグリングの妙技で講演を締めくくりました。

ホワイトボードに数字を羅列し、客席に向かって質問を投げ掛ける。意外な数の法則に感嘆の声が上がる

感謝の花束を手にした笑顔のフランクル氏

講演後に行われたサイン会には、フランクル氏の著書を手にした学生や一般参加者が詰め掛けた

「福岡大学産学連携協議会」を設立

福岡大学は、平成26年11月5日（水）、本学出身の企業経営者とともに、企業と本学の共同研究や人材育成を推進するため、「福岡大学産学連携協議会」を設立しました。

設立総会当日は、本学出身の企業経営者と本学関係者約50人が総会に出席。本会共同代表に、九州医療食株式会社の代表取締役会長兼社長・川邊義隆氏と本学衛藤卓也学長が選出されました。今後の活動として、会員企業と本学や会員企業間の連携および技術・経営相談などに積極的に取り組んでいくことを確認しました。

総会終了後の特別講演では、日本政策投資銀行企業投資部課長・福山公博氏をお迎えし、「アジアを中心としたグローバル化への対応」というテーマのもとご講演いただきました。

福岡大学の人脈が生かされた産学連携が今後ますます活発に

福岡大学から5人のJリーガーが誕生 FIFAワールドカップで使用されたガラスルーフベンチが本学へ

平成26年12月1日（月）、Jリーグ各クラブへの入団が決定した本学サッカー部員5人と各球団関係者が記者会見を行いました。入団が決定した5人は、大武 峻選手（名古屋グランパス）、武内 大選手（V・ファーレン長崎）、田村 友選手（アビスパ福岡）、山崎 凌吾選手（サガン鳥栖）、弓崎 恭平選手（ギラヴァンツ北九州）です。会見ではそれぞれが今後の抱負を熱く語りました。今回のJリーグ入団でプロサッカー選手は合計58人になります。

また、12月5日（金）には、「ガラスルーフベンチ寄贈式」が行われました。このガラスルーフベンチは、2014 FIFAワールドカップ競技用ベンチ向け公式認定ガラスルーフであり、実際に使用されたものです。製作会社である旭硝子株式会社のご厚意により、本学サッカー部へ寄贈されました。

今後、今回Jリーグに入団した5人と、本学サッカー部に大きな期待がかかります。

入団が決まった5人がユニフォーム姿でサッカー部乾監督と記念撮影

ワールドカップで実際に使用されたガラスルーフベンチの寄贈式、テープカットの様子

第10回（平成26年度）全国高校生川柳コンクールの入選作品が決定

福岡大学が主催する第10回（平成26年度）全国高校生川柳コンクール（後援：文化庁、全日本川柳協会、福岡県ほか）の入選作品53作品（大賞1作品、優秀賞2作品、入賞50作品）が決定しました。

このコンクールは、高校生が日頃感じたり考えたりしていることを自由に表現してもらおうと企画したもので、今年度は全国123校の高校生8,012人から18,574句が寄せられました。たくさんのご応募、ありがとうございました。

詳細はこちら　第10回（平成26年度）全国高校生川柳コンクールの詳細は、専用のウェブサイトをご覧ください。高校生 川柳 検索

大賞	会えたのに みんなそろって スマホ見る 京都府 大谷高等学校2年 河合 晴夏さん
優秀賞	初盆で 叔母が作った 祖母の味 長崎県 純心女子高等学校3年 應戸 珠未さん
優秀賞	とけていく アイスととけない 二次関数 長崎県 長崎県立大村工業高等学校3年 本白水 ななみさん

EVENT SCHEDULE

※学部や学年などによって異なる場合があります。

1月
冬季休業終了（4日）
後期授業再開（5日）
後期授業終了（14日）
後期定期試験（15日～27日）
大学入試センター試験（17日・18日）
学部留学生入試（31日）

2月
一般入試〔系統別日程〕（本学・各地2日）
一般入試〔前期日程〕（本学・各地3日～6日、11日）
医師国家試験（7日～9日）
成績発表開始（医学部医学科第1～4学年）（13日～）
海外研修生派遣（オーストラリア・アメリカ）（14日～3月14日）
成績発表開始（医学部医学科を除く4年次生以上）（17日～）
保健師国家試験（20日）
一次学士合格者発表（20日）
一般入試〔系統別日程・前期日程〕、センタープラス型入試、大学入試センター試験利用［Ⅰ期］入試合格発表（21日）
学部留学生入試合格発表（21日）
看護師国家試験（22日）
大学院春季入試（22日～25日）
追・再試験（26日～3月3日）
大学入試センター試験利用入試［Ⅱ期］合格発表（27日）
交換留学生派遣（中国・韓国・台湾）
薬剤師国家試験（28日・3月1日）

3月
海外語学研修生派遣（中国）（1日～15日）
一般入試〔スポーツ科学部特別募集〕、社会人入試〔後期日程〕、編・転・学士入試（3日）
修士・博士学位合格者発表（5日）
一般入試〔後期日程〕（6日）
大学院春季入試合格発表（9日）
成績発表開始（医学部医学科第2～5学年）（12日～）
二次学士合格者発表（13日）
一般入試〔後期日程、スポーツ科学部特別募集〕、社会人入試〔後期日程〕、編・転・学士入試合格発表（14日）
在学生成績発表開始（医学部医学科第1学年を含む）（14日～）
医師国家試験合格発表（18日）
学部卒業式・大学院学位記（修士）授与式（19日）
商学部第二部卒業レセプション（19日）
大学院学位記（博士）授与式（24日）
看護師国家試験合格発表（25日）
保健師国家試験合格発表（25日）
薬剤師国家試験合格発表（27日）
在学生履修登録（下旬）

4月
入学式（1日）
前期授業開始（8日）

季節の言葉

日本の四季折々の、古くからのことわざ、習慣、生活文化などにまつわる言葉。その中には、私たちの国をあらためて知り、さらに愛着を深めるための糸口が隠されています。

春隣（はるとなり）
冬の季語。もうすぐそこまで春が来ているという意味。日差しは朝起きるたびに少しずつ伸びて。その陽の光が、とても温かく感じられます。

麦踏（むぎふみ）
2月、寒さも募るころ、霜柱で根が浮き上がらないよう麦の根を踏みます。もっと強く育つように、その根が若々しい生命力を持つように。愛情と祈りを込めて、踏みます。

本誌「福岡大学学園通信」に関するご感想をお寄せください。より良い広報誌づくりのために、ご意見・ご感想などをお待ちしています。
また、情報提供などありましたらお知らせください。
第48号（通巻218号）平成27年1月15日発行
編集・発行：福岡大学広報委員会（企画部広報課）
〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
TEL：092-871-6631（代）　E-mail：fupr@adm.fukuoka-u.ac.jp

第6回

福大生サポート募金
寄付者ご芳名一覧

福大生サポート募金は「本学の学生に対する全人教育の推進、豊かな学生生活の形成を支援する制度」として、在学生、卒業生、保護者、大学の相互の〝絆〟をより一層強めるとともに、本学独自の寄付文化の醸成を図ることを目指し、平成23年6月から開始いたしております。

この福大生サポート募金の趣旨にご賛同いただいた皆さま方から、任意のご寄付にもかかわらず、多大なるご協力が寄せられておりますことに深く感謝いたしております。ここに、ご寄付をいただきました方々のご芳名を下記要領のとおり掲載させていただきます。

なお、本募金は金額の多寡にかかわらず、末長く継続的にご支援くださることを願うものであります。これからも皆さまの変わらぬご賛同・ご理解を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

■寄付者ご芳名掲載要領

一、本号では、平成26年4月1日から平成26年9月30日までの寄付者のご芳名を掲載します。

一、卒業生、在学生の保護者、職員・役員、企業等法人、その他という募金対象者の区分ごと（寄付金額の多い順、およびご芳名は五十音順）に掲載します。

一、分割での払い込みの方は、平成26年4月1日から平成26年9月30日までにご寄付をいただいた金額と募金期間中の累計金額を（　）で掲載します。

一、今後も、年2回（冬号「1月発行」および夏号「6月発行」）に掲載する予定です。

※同じ方が卒業生、職員等別々の立場でご寄付をされた場合は、それぞれの欄に掲載させていただいておりますので、ご了承ください。

※〈免税措置について〉
本募金は、原則として、個人・法人を問わず寄付金控除の対象となります。詳しくは、「募金趣意書」に記載しておりますので、ご覧ください。

■寄付金受入状況【使途別】　平成26年9月30日現在

使途	平成25年度までの寄付金額（円）	平成26年4月から9月寄付金額（円）	寄付金額（円）
経済的困窮学生に対する給費奨学金	4,561,905	5,395,000	9,956,905
学生海外大学派遣プログラム	854,700	2,000	856,700
学生スポーツ強化	1,621,200	19,000	1,640,200
福大生ステップアッププログラム	506,200	2,000	508,200
その他、学生支援事業	22,535,196	1,203,024	23,738,220
合計	30,079,201	6,621,024	36,700,225

■寄付金受入状況【募金対象者別】　平成26年9月30日現在

募金対象者	平成25年度までの寄付金額（円）	平成26年4月から9月寄付金額（円）	寄付金額（円）
卒業生	8,676,969	310,000	8,986,969
在学生の保護者	7,275,000	350,000	7,625,000
職員・役員	5,689,162	458,000	6,147,162
企業等法人	7,070,000	0	7,070,000
その他	1,368,070	5,503,024	6,871,094
合計	30,079,201	6,621,024	36,700,225

卒業生

■二十万円
平野　俊一（八十万円）様

■六万円
村田　慎二（十八万円）様

■三万円
野田　守洋（九万円）様

■二万円
山田　忠昭（四万円）様
匿名（三万円）様

在学生の保護者

■十万円
青野　誠一郎　様
逸見　嘉之介　様

■三万円
久間　祥一　様

■二万円
長尾　克也　様
野崎　博（五万円）様
山脇　正晴（八万円）様

■一万円
岡　克彦（四万円）様
税田　芳典　様
西迫　由紀子　様
藤井　正弘（四万円）様
牧崎　英樹　様
山本　美枝　様

職員・役員（退職者・学外理事等を含む）

■十万円
衛藤　卓也（五十万円）様
坂口　敏幸（十三万円）様

■四万八千円
植田　利恵子（二十八万八千円）様

■三万円
志渡澤　登（八万円）様
鈴川　一己　様

■二万円
井手　俊輔（六万円）様
匿名（六万円）様

■一万八千円
加茂　憲二（九万八千円）様
杉尾　千草（四万円）様

■一万四千円
濱崎　弘志（七万八千円）様

その他

■五百万円
故　寺尾　友嘉　様（ご遺族様）

■五十万円
匿名（百五十万円）様

■一万円未満
倉田　直峰　様
藤田　礎　様

■一万円
池田　雅文（八万円）様
河村　正徳（二万二千円）様
松本　祐一（五万円）様

■一万円未満
岡崎　明（八万二千円）様
坂上　謙二（九千円）様
壬生　伸子（三万二千円）様
匿名（二万七千円）様
匿名（四万三千円）様

第4回（最終）

福岡大学筑紫病院寄付金募集
寄付者ご芳名一覧

平成24年1月から皆さまにお願いしてまいりました「福岡大学筑紫病院寄付金募集」は、おかげさまをもちまして、平成26年5月末をもって募集期間を終え、寄付金の拝受を終了させていただきました。

皆さまから寄せられました温かいご支援に心から感謝申し上げますとともに、最終寄付状況を下記のとおりご報告申し上げます。

当院は、大学病院、地域医療支援病院として地域の皆さまに、さらなる安心・安全な高度医療を提供するため、平成23年3月に新病院の建設を開始し、平成25年5月7日に開院いたしました。このたびの寄付金募集は、新病院建設資金の一部に充当するため実施してまいりました。

また、募金活動としては、福岡大学創立75周年記念事業に続いての事業となり、皆さまに多大なご負担をお掛けしたことと、恐縮しております。結果として目標額の3億円には及びませんでしたが、ご支援くださいました皆さまのご厚志は何ものにも替え難いものと深く感謝いたしております。

最後になりましたが、多くの皆さまのご芳情に重ねてお礼を申し上げますとともに、筑紫病院としての社会的使命を踏まえて、さらなる飛躍・発展に当院関係者一同一層の努力を重ねていく所存です。今後とも、当院へご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

■寄付者ご芳名掲載要領

一、本号では、平成26年1月1日から8月31日までの寄付者のご芳名を掲載します（寄付者のご芳名の公表は本号で終了します）。

一、卒業生、在学生の保護者、名誉学長・教授、職員・役員、企業等法人、その他という募金対象者の区分ごと（寄付金額の多い順、およびご芳名は五十音順）に掲載します。

一、分割での払い込みの方は、平成26年1月1日から8月31日までにご寄付をいただいた金額と募金期間中の累計金額を（　）で掲載します。

※同じ方が卒業生、職員等別々の立場でご寄付をされた場合は、それぞれの欄に掲載させていただいておりますので、ご了承ください。

※〈免税措置について〉
本募金は、原則として、個人・法人を問わず寄付金控除の対象となります。詳しくは、「募金趣意書」に記載しておりますので、ご覧ください。

※「福岡大学筑紫病院寄付金募集」の募集期間は、平成24年1月から平成26年5月までとなっております。受付は終了いたしました。

募金に関するお問い合わせ先

福岡大学 財務部財務課
〒814-0180
福岡市城南区七隈八丁目19番1号
TEL 092-871-6631（代）内線 2313～2316
FAX 092-862-7204
E-mail zaimuka@adm.fukuoka-u.ac.jp

■寄付金受入状況【募金対象者別】　平成26年8月31日現在

募金対象者	寄付人（法人）数	寄付金額（円）
卒業生	103	10,110,000
在学生の保護者	110	5,656,000
名誉学長・教授	27	1,700,000
職員・役員	286	12,388,000
企業等法人	52	32,140,000
その他	8	1,500,000
合計	586	63,494,000

平成25年5月7日に開院した新病院外観

卒業生

■二百万円
三ッ角　直正（三百万円）様

■五万円
市丸　壽彦　様
倉岡　抄子　様

■二万円
植田　治夫（八万円）様

在学生の保護者

■一万円
伊藤　隆康　様
森園　哲夫　様

■六万円
藤　恵治（三十万円）様

■五万円
青柳　征一　様
柴田　陽三　様
薗田　忠明　様
松井　敏幸　様

■三万円
坂上　謙二（五万円）様
高山　理子　様

■一万円
岡村　圭祐　様
北島　研　様
東條　秀明　様
光武　良晃　様
森　憲　様

職員・役員（退職者・学外理事等を含む）

■三十万円
岩下　明徳　様
浦田　秀則　様
前川　隆文　様

■二十万円
古賀　和久　様

■十万円
河村　富美子　様
向野　利寛　様
柴田　憲司　様
平塚　義治　様
牟田　浩　様

企業等法人

■十四万円
医療法人雅美会（三十五万円）様

■十万円
オリエント産業株式会社　様

Archive

あの日からの贈り物 GIFT.08

1941

1941年
七隈キャンパスでの農作業

前身校である福岡高等商業学校で共に収穫を喜び、爽やかに笑い合う先輩たち。決して恵まれているとは言えない日々にも、掛け替えのない青春の充実があった。

共に助け合う

ここには、受け継がれている思いがある。
70余年前、苦難の戦争時代にも
キャンパスには溌剌(はつらつ)とした笑顔があった。
食料不足を補うため、共に畑を作り耕し
収穫を分け合って、明日への活力とした。

「いま、私たちにできること」を胸に
被災地へ支援に向かう、
東日本災害ボランティア「福岡大学派遣隊」。

地域の方々や警察と連携した地域防犯啓発活動で
全国から注目を集める、
「ななくま元気にするっ隊」。

一人暮らしの高齢者を訪問して
会話の相手や病状の確認を行う、
「メンタルサポート研究会」。

人を思い、人に尽くす。
共に助け合う過程の中で自らも成長していく。
これからも永く、受け継がれていく。